2023 年度

チャペル講話集

関西学院大学社会学部

2023 年度　チャペル講話集目次

Ⅰ．多様性を祝う

たまにはオオアリクイのことを考えてみる ……森　久美子…　5

Ⅱ．心新たに－コロナ後の出発

今こそ Small Talk しよう ……大岡　栄美…　11

本当に新しいものは新しいとは感じない ……立石　裕二…　15

先人との歴史的つながり：バンクーバーで考えたこと ……寺沢　拓敬…　18

フィクションと現実世界 ……松宮　園子…　22

他人に上手に迷惑をかけよう ……村田　泰子…　25

Ⅲ．イエスのたとえ話から

「私のものは全部お前のものだ」 ……Timothy O. Benedict…　33

毒麦のたとえ－待つことの大切さ ……打樋　啓史…　36

Ⅳ．人間らしさとは

内村鑑三の「ためらい」 ……赤江　達也…　43

宗教と科学と人間らしさ ……鈴木　謙介…　46

AI よりも人間らしくなる ……清水　裕士…　50

人間の可能性としての超越 ……Hans Peter Liederbach…　54

ボスニア・ヘルツェゴビナから考える人間らしさと平和 ……荻野　昌弘…　57

Ⅴ．身近な社会問題から

韓国のバンドが日本で行ったパフィーマンスから見えたこと ……高原　基彰…　63

「近く」と「遠く」の想像力 ……阿部　　潔…　68

「助けて」といえる社会に ……長松奈美江…　72

Ⅵ. 定年退職者による最終チャペル講話

関学の命名をふり返る－定年退職を迎えて ……宮原浩二郎… 77
有意義な大学生活の秘訣－昔と今の学生調査の比較から ……大谷　信介… 81
私が戦争について聞いた話 ……桑山　敬己… 84

Ⅶ. 学年度末にあたって

「鎮めの時間」を生きる ……島村　恭則… 91

Ⅰ．多様性を祝う

2023. 5. 16（火）

たまにはオオアリクイのことを考えてみる

森　　久美子

二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか．だが，その一羽さえ，あなたがたの父のお許しがなければ，地に落ちることはない．あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている．だから，恐れるな．あなたがたは，たくさんの雀よりもはるかにまさっている．

（マタイによる福音書　10 章 29-31 節）

雀の価値

おはようございます．今，聖書の言葉を読んでいただいたのですけれども，私は中学と高校はキリスト教の学校に通っていまして，今のみなさんと同じように，朝，聖書の言葉を読んだりお話を聞いたりするような時間を持っていました．先ほど読んでいただいた聖書の箇所は，当時中学生だった私が，その頃とても納得がいかなかったことをよく覚えているところです．納得できなかった理由は単純で，私は小学生の頃から小鳥を飼っていました．いつも一緒にチャペルに出ていた友達も小鳥を飼っていて，小鳥友達だったわけです．雀と人間を比べて，あなた方はたくさんの雀よりもはるかにまさっていると書いてあるのが，どうにも納得いかなくて，聞くたびにふたりで文句を言っていました．この言葉自体は，雀や髪の毛一本のような，本当に小さく気づかれにくいものでも神様は目にとめてくださっているということを言っていて，そのメッセージはよいと思うのですけれども，雀と人間のどちらに価値があるかということを誰かに一方的に決められてしまうことが，当時の私には納得がいかなかったのだと思います．

ドラマ『ブラッシュアップライフ』

話は変わりますが，しばらく前に『ブラッシュアップライフ』という連続ドラマがありました．ご覧になった方は…（見回して）あまりいらっしゃらないでしょうか．そのドラマでは，第 1 回で主人公が 30 代で事故に遭って死んでしまいます．そして死後の世界の受付みたいなところに行くのですが，そこで「あなたの来世はオオアリクイです」と言われてしまいます．主人公は「オオアリクイは嫌だな」と思って，今死んだばかりなのですが，自分が生きてきた人生をもう一回，生まれたところからやり直すことを選びます．やり直して，生きている間に頑張って徳を積

めば，次はもう少しいいものに生まれ変われるだろう，人生をブラッシュアップして人間に生まれ変わろう，と頑張るのですが，死ぬたびに，「次の人生はサバです」とか「ウニです」とか言われて，なかなか人間に生まれ変わることができません．で，そのたびにやり直しを選ぶ，というようなお話なのですが，皆さんだったらどうですか．次の人生がオオアリクイだったら嫌ですか．サバやウニとして一生を送るより，人間が選べるのだったら人間の方がいいと思うでしょうか．

生まれ変わったら何になりたいかという話で，私も言ったことがありますが，生まれ変わったら猫になりたいというような話を時々します．そのような時に出てくるのは，だいたいこちらから見て気持ち良さそうで幸せそうに見える存在なのではと思います．そういう姿を見ると，今度はあのように生きられたいいのにというような気持ちになると思うのです．一方で，オオアリクイやサバやウニは，普段生活している時に，よほどのアリクイマニアなどでなければ，それほど意識に上ることが少ない存在ではないかと思います．オオアリクイがどのような一生を生きるのか，関心を持ったことがある人は少ないのではないでしょうか．雀も，私が中学生の時はたまたま鳥好きだったので，雀の価値がわからないなんて，と思ったわけですが，多くの人にとっては，恐らくそれほど関心を持つ対象ではないだろうと思います．ましてや空を自由に飛んでいるならまだしも，捕まえられてまとめて市場で売られているとなると，あんまりなってみたい対象として選ぶ感じでもないのだろうと，今はある程度納得しています．

多様性と生きやすさの格差

さて，今月のチャペルは「多様性を祝う」というテーマでお話が進んでいます．私たちは，オオアリクイになるのか，人間になるのか，雀になるのかを選べないのと同じように，どのような人種に，どのような性別に，どのような体で生まれてくるのか，どのような家庭やどのような社会に生まれてくるのかを選ぶことはできません．生まれ変わったらあんな風になりたいなと思うことは誰しもあるかもしれませんが，それが叶うわけでもないですし，生まれ持った自分の属性と共に生きていかねばなりません．

「多様性を祝う」というテーマもそうですが，多様な属性を持っている人々が共に生きることは，いい話のようには聞こえるのですが，しかし楽しい話ばかりでもないとも思います．人間も 1 羽の雀も同じように生きやすい社会であればよいのですが，現実は必ずしもそうではなくて，私たちが持つさまざまな属性の違いは，そこに何らかの生きやすさの格差のようなものを内包しているものでもあると思います．

知り合いに教えてもらった，格差を体験するワークショップというのがあります．何か出典があるのかと思い，今回チャペルでお話しするにあたって調べてみたのですけれども，あまり出典がはっきり分からなかったので，すみませんが，ここでは聞いた話をそのままお話しします．どのようなワークショップかというと，教室の一番前に箱を置きます．皆さんには紙を 1 枚ずつ配って，紙に自分の名前を書いてもらい，くしゃくしゃと丸めてボールにして，この箱に目がけて投げてくださいと言います．箱にボールが入る

と，紙を広げて入れた人の名前が読み上げられ，拍手で表彰されます．そうすると，前に座っている人は，この辺に箱があるとしたら，少し頑張って一生懸命コントロールしたら，結構入るかなという感じだと思うのです．一方で，もう少し後ろの方の人になってくると，この辺の箱に入れるのはなかなか大変だなという感じになりますよね．一番後ろに座っている人だと，ここに箱を置きましたよと言われても，箱自体が見えないかもしれないし，どこにあるかよく分からない箱に向かって，真面目に一生懸命ボールを投げる気にも，あまりならないかもしれません．

このワークショップでは，前に座っているか，後ろに座っているかは，社会の中でのその人の属性に伴う生きやすさのようなものを表しています．例えば，私は日本人ですけれども，日本社会で生きている時は，自分の日本人という属性をあまり意識することなく，当たり前だと思って生活しています．でも，違う国で暮らすとなると，自分とその国の人たちとの違いをある程度意識し，その国のやり方について考えながら生活することになるでしょう．自分の属性をいちいち気にせず生きられるというのは，本人が自覚していなくても，そうではない人から見ると特権的な部分もあって，今の話で言えば前からボールを投げている感じになるところがあると思います．今は国の話で言いましたけれども，人はいろいろな属性を持っているので，同じ人であっても，どのような属性を考えるかということで，前からボールを投げているように見える時もあれば，後ろからボールを投げているように見える時もあるかと思います．

ボールを決めたのは自分，だけど

ここで注意していただきたいのは，前に座っている人は，確かに箱にボールを入れやすいです．だけど，その人たちが何の努力もしないでボールを命中させているかというと，そうではないという点です．前に座っている人だって，一生懸命コントロールして，箱に入れるぞと思って頑張って投げています．その結果としてボールが箱に入るわけです．前の人も，その人なりに頑張っているのですね．だから，いちばん前の人がボールを箱に入れた時，それを自分の努力の成果だと思うのはある意味当然です．頑張って入れたわけですから．だけど，もう少し後ろの方の人から見るとどう見えるでしょう．「いいな，あんな近いところから投げられて．自分も今度生まれ変わったら，あんなすぐ近くからボールを投げてみたいものだよ」と，後ろの人は思っているかもしれません．

だけど，後ろの方で，「前の人はいいな，自分もあんな近くから投げたいな」と思っている人も，そのまた後ろに，もっと遠くから投げないといけない人が座っていることにはあまり気が付かないことが多いです．前に向かって，箱の方を見て，一生懸命ボールを投げることに集中していると，後ろを見ることはありません．自分の後ろの人はもっと遠くから頑張って投げないと届かないのだということにはなかなか気が付きません．先ほど，オオアリクイやサバやウニについて，どのような一生を送るのか考えたことがある人はあまりいないのではないかと話しましたけれども，それと同じように，別に悪気があるわけではないが，あまり後ろの方に関心を持ったり後ろを振り向いたりすることがなくて，前

ばかり見ていることが結構多くて，結果として悪気なくその人たちの存在に気付かない，というようなことがあるのではないかと思います．

みなさんはこれまでそれぞれ頑張っていろいろなことに取り組んで，成果をあげてこられたことだろうと思います．みなさんの達成が皆さん自身の努力の賜物であることは本当に間違いがないと思います．ただ，その一方で，自分は社会のどこからボールを投げてこの成果を得たのか，あるいは自分より遠くからボールを投げざるを得ない人がいるのではないか，などを時々考えてみてもいいのではないかと思ったりもします．私もあまり上手にできているわけではないのですけれども，もしもあなたが誰かより少し前の方にいるとしたら，ちょっと体を屈めて後ろの人が投げるボールが入りやすくなるようにすることもできるかもしれません．あるいはそのようなシステムを作るなど．そうしたことは，逆に言えば，前にいる人しかできないことであったりもするわけです．

ということで，前ばかりを見てボールを投げ続けるのではなくて，時々振り返ってみると，今までとは違う景色が見えることもあるのではないでしょうか．たまにはオオアリクイやサバやウニ，そして雀について考えてみてもいいのではないかというのが，今日の私からのメッセージです．どうもありがとうございました．

（社会学部教授）

Ⅱ．心新たに－コロナ後の出発

2023. 6. 13（火）

今こそ Small Talk しよう

大 岡 栄 美

今年は社会学部の副学部長をしていますので，１年生の皆さんには入学式の時にご挨拶させていただきました．社会学部では「関係性の社会学」をテーマに，つながりやネットワークの効果についての授業を担当しています．今月のテーマは「心新たに―コロナ後の出発」です．大学の活動制限も５月にすべて撤廃され，気温も上がり，マスク OFF の生活もようやく定着しつつあるように思います．本格的にポストコロナ期に入った今，充実した大学生活を送るためのちょっとした工夫を皆さんと一緒に考えていきたいと思います．

オーストラリアでの留学生活と Small Talk

私は昨年在外研究の時間をいただき，１年ほどオーストラリアのメルボルンで生活してきました．メルボルンで生活して驚いたことの一つに，とにかく見知らぬ人同士で，たくさんの会話をするということです．私はカナダのトロントにも５年住んでいましたが，カナダでもオーストラリアほどには話しかけられなかったように記憶しています．

例えばこんなことがありました．公園を一人で歩いていると，女性が「あなたの靴素敵ね．どこで買ったの？」といきなり声をかけてきたのです．私は足が 21.5cm と小さく，その時私が履いていた靴も子ども用のスニーカーでした．ただスニーカーなのに靴の前の部分にゴム素材の泥除けがついている大変便利な靴でした．私は「これは子ども用で，そして日本から持ってきたので，メルボルンでは買えないんですよ」と答えました．すると彼女はがっかりした様子もなく，「だと思った！すごく履きやすそうで，こんな靴みたことないと思ったから」と言ってくれました．そこから他にも何か言葉を交わして，「ありがとう，素敵な一日を！」と言って別れました．靴を褒められたことでも，会話を交わせたことでもとても幸せな気持ちになりました．またこんなこともありました．文房具屋さんでレジに並び，精算を済ませていると，私の使っている銀行カードに目を止めた店員さんから，「そのカードどう？今度海外に行くからそのカード作ってみようと思っていたんだよね」と話しかけられたのです．そしてまた二言，三言言葉を交わし，「良い一日を！」と言って別れたのです．日常生活がこうしたことの連続で，メルボルン移住当初は友人が一人もいなかった私ですが，家族以外，誰ともと会話しないまま一日が終わるということはほぼありませんでした．友人や親

せき，仕事の同僚がいなくても，一日の中で誰かと，何かの会話をするチャンスがあちこちにあるのです．

こうした見知らぬ他者やちょっとした知り合いと行う，気軽な会話を英語では「Small Talk」と言うそうです．スモールトークは日本語で「雑談」とも訳されます．「雑談力」についての著書を複数出している明治大学の斉藤孝教授は雑談を「同じ場を共有している人同士が，お互いを理解したり，くつろいだりするための『地ならし』として行う」と言います．何やら堅苦しいですが，日常の中でのスモールトークはそこまで頑張ってするものでもなく，仲良くなりたいとか，下心があってするものではありません．本当に「ちょっとした（Small）会話（Talk）」で，深入りするような言葉がけではないところに特徴があります．

声を掛け合うことの効果

ところでスモールトークにはどのような効果があるでしょう．例えば職場では，仕事を効率よく進めるには業務に関する話だけをしたほうがよいようにも思えます．しかし実は「最近，どう？」のようなちょっとした会話をすることがむしろ，働く人の職場への帰属意識を高め，孤立感をやわらげ，より生産性を高め，仕事の効率を高める効果があることが明らかになっています．また職場だけではなく，まちで暮らす場合も同じで，こうした会話を交わす顔見知り（でも友人ではない）が増えることはまちへの愛着を高め，住みやすさにつながることが指摘されてもいます．声をかけてくれる人がいるということは，それが一期一会であっても，自分を気にかけてくれる，「関心をもってくれる」人がいるということを意味します．それはそのまちで暮らす安心感や居心地の良さにつながるともいえるかもしれません．私自身メルボルンで孤独感を感じることもなく，メルボルンという街を好きになり，居心地よく暮らせていたのは，こうしたスモールトークの効果があったようにも感じます．

一方，日本に帰国してみると，今度は見知らぬ他人，ちょっとした顔見知りの人との気軽な対話や交流がないことが，非常に私たちの社会を息苦しく暮らしにくいものにしているのではと感じることがあります．日本では見知らぬ人同士で会話を交わすことは元々それほど当たり前とはいえないでしょう．それどころか距離感が近すぎることで思わぬトラブルを招くこともあります．そのため誰もが無用なトラブルを避けるため，不用意に見知らぬ他者とコミュニケーションをとらないようにしているように感じます．

またその傾向は，コロナ禍で一層強まったのではないでしょうか．人と人との接触を介して感染を広げたこの病気の特性もあり，私たちは友人や知人はもちろん，見知らぬ他者との関係を，コロナ禍で一層遠いものにしてしまったということはないでしょうか．

例えば，私の「ソーシャル・ネットワーク論」の授業でも紹介しましたが，コロナ禍の大学生の友人関係については，次のような調査があります．大学生にとって，こういったちょっとした会話をする，スモールトークをするような相手は「よっ友」と言われる存在です．皆さんも聞いたことがあるかもしれませんが，大学で会った時に「よっ」と声をかけ合って，そこまで深い話はしないけれども，ちょっとした雑談をするような存在で

す．コロナ禍で，実はこのような「よっ友」が消滅してしまって，大学生のコミュニケーションの相手が非常に狭まっていることが指摘されています．

このことは大学生活にどのような影響を与えるのでしょうか．先ほど紹介したように，スモールトークができる相手がいることは，職場やまちへの帰属意識を高め，孤独感を和らげ，居場所感というものを生み出す効果を持っています．そう考えると，こうした「よっ友」が縮小したこと，あるいはオンライン授業の増加により，大学で気軽なスモールトークを周りの人と楽しむ機会が少なくなってしまったことは，もしかしたら，皆さんの大学への所属意識や大学での居心地の良さ，さらには学びへのモチベーションを弱めることにつながっていないかということが心配されます．

ポストコロナの大学コミュニティ構築に向けて

現在大学はほぼコロナ前のにぎわいを取り戻し，キャンパスにも多くの学生の姿が見られます．とはいえ，授業で隣に座った人にいきなり「今日の服，いいね」などと話かけたりすることは日本人は苦手ですし，難しいですよね．誰もが友達同士で連れ立っているようにも見えます．せっかくキャンパスに来ても誰とも会話せずに帰宅していくというようなこともあるかと思います．そうした場合には孤独感は増すし，どっと疲れて勉強どころではないかもしれません．

それでも，あえて皆さんにスモールトークをしてみようよというようなことを，今日は呼びかけてみたいと思います．大学でスモールトークをやってみる，気軽な関りを増やしていくことができるとするならば，社会学部の事務のスタッフや図書館，あるいは交通整理を行ってくださっているスタッフの皆さんからかもしれません．普段は空気のように，あいさつすらしないで通り過ぎているような方たちと少し話をしてみると，何か新しい世界が開けてくるようなこともあるかもしれません．さらには皆さんが普段は少し近寄り難いと感じているかもしれない私たちのような教員も，実は学生が気軽にスモールトークで話しかけてくれるのを待っている．そして，その一言をきっかけに会話を始めて，いい時間を共有することを楽しみにしているところもあります．

いきなり研究の内容や授業の内容で話しかけるのはハードルが高く感じる部分もあるかもしれません．そのような時に「今日は暑かったですね」など，気軽な会話をスタートしていく．スモールトークからちょっとした知り合いと関わることの楽しさを再確認し，大学での顔見知りを増やしていく，そのようなことがコロナが落ち着いてきたこの時期に求められていることなのではないかと感じています．

もしかしたら，自分が自分を居心地良くするために始めたスモールトークが，誰かを元気づけたり，励ましたりすることにつながっていくかもしれません．そのようにして，少しずつ新たに大学生活の活動範囲や居場所を広げて，つながりを増やしていくことができたら，皆さんの大学生活がさらに充実したものになっていくのではないでしょうか．

ぜひ私にも「この前のチャペル聞きました」とか「先生，メルボルンのどこのカフェがお気に入りでしたか」とか話しかけてもら

えたらと思います．もちろん会話が弾むことも，うまくいかないこともあるかと思います．実は，私もスモールトークしようと思って，ゼミの学生の髪色がすてきだったので，「ピンク色すごく似合っているね」というような感じで話しかけたのですが，すごくドン引きしているのを感じることがありました．最近ではなかなか外見のことについて声をかけていくのは難しいなとへこみました．

しかしながら，スモールトークは相手を傷つけるような言葉がけでなければ，もちろんセンスが問われることはありますけれども，実は失敗も成功もなく，気軽に，お金もかからずに始めていける試みかなと思っています．そのようにして，皆さんがこれまでとは違う一歩を踏みだし，一言をかけ合い，これまでとは違う関りを増やしてみることが，この関西学院というコミュニティが，コロナを超えて，皆さんにとって一層居心地の良い場所になっていくきっかけになるのではないでしょうか．そう願って，今日，この「スモールトークしてみよう」というテーマでお話しさせていただきました．

（社会学部准教授）

2023. 6. 21（水）

本当に新しいものは新しいとは感じない

立　石　裕　二

はじめに

「科学・技術の社会学」「リスクの社会学」を担当している立石です．今日は，新しいとはどういうことかについて，普段考えていることをお話しできればと思います．

皆さんは，「新しい」と聞くと，流行りのものをフォローすることを思い浮かべるかもしれません．確かにそれも「新しさ」の一形態だと思いますが，すでに誰かが作って，新しいものとしてある程度広まった後になってから，トレンドに乗じているだけとも言えるわけです．

金森修先生の授業

約 25 年前，大学 2 年生のときの授業の話から始めます．その授業は，当時私が通っていた大学に非常勤として来られていた，フランスの科学史・科学思想を専門とする故金森修先生によるものでした．この授業は，私がのちに科学・技術の社会学を専門的に研究するきっかけの一つとなりました．

金森先生の授業は少し風変わりで，ほぼ板書やプリントも使わずに，圧倒的なスピードで話すものでした．怒濤のように話して，その回の内容を話し終わったら，少し早めでも授業を終えて，颯爽と帰って行くのです．

よく覚えているのは，ゼミではなく普通の講義科目だったにもかかわらず，受講している学生が，私を含めて 4 人しかいなかったことです．私以外の 3 人は知り合い同士のようでした．あまりの少なさに履修をやめようかとも思ったのですが，4 人しかいないので，初回の授業から先生と頻繁に目が合うんですね．それで，なんとなくやめにくい気持ちになって，そのまま履修することにしました．

この授業で特に印象深かったのは，金森先生の話の熱量がすごかったことです．当時，科学技術の社会学や科学技術社会論という分野は日本であまり知られておらず，教科書として使えるような本もまだ出ていない状況でした．確立された分野であれば，初回の授業はこういう内容で，次は…という流れがおおよそあって，それをベースに話を組み立てるのですが，そういう見取り図はありませんでした．その代わりに，近年このような研究が発表されたとか，今こういうことが議論の的になっているといったことをひたすら話すのです．当時は，学生目線から見ると「親切」とはいえない授業が少なくなかったですが，その中でもだいぶ風変わりな授業だったと思います．

授業を受けていた時は知らなかったのですが，ちょうどその頃，科学技術社会論という分野が日本で知られ始めたタイミングで，その中心人物の一人が金森先生でした．授業を受けたのは 1999 年の秋学期ですが，そのときの授業内容を一部ふくむ形で翌年に『サイエンス・ウォーズ』（2000 年，東京大学出版会）という本を出版され，その本により，サントリー学芸賞という権威のある学術賞を受賞されました．

しかし，授業を受けている間，自分が最先端の話を聞いているとは感じていませんでした．私自身，「科学技術と社会」というテーマにそれほど関心がなかったこともあって，ただただ変わった授業だと思っていました．新しい研究分野だからといって，問題の見方・切り取り方が新しいだけで，扱う事例やデータがすべて最新というわけではありません．授業を聞くだけでは新しさは分からないわけです．授業の中で，いま自分たちは日本で新しい分野を仕掛けようとしている，といった話もされていたのですが，４人の学生を前にそんな話をされてもピンときませんよね．単に変わった先生が変わった話をしていて，この先生，この分野がすごく好きなんだな，ということだけが伝わってくる授業でした．

異質なものに挑戦してみる

今日の話でお伝えしたいのは，本当に新しいものは新しいとは感じない場合があるということです．この点は，「新しい」とは何かを考える上で，すごく大事なことだと思います．世の中ですでに新しいと認められていることを新しいと感じるのは簡単だけれども，そうではないこと，自分にとっても周りにとっても，それまで接したことがない異質なことに対しては，そのときの私のように，「変わっている」と思うことはあっても，「新しい」とはなかなか感じられないと思うのです．ですが，実はそういうところにこそ本当の新しさはあるのではないでしょうか．

みなさんが授業科目を選ぶときに，いわゆる人気授業を選ぶと，どうしても今流行っているものを扱った授業になりがちです．社会学部という学部の特徴でもあるので，それはそれで良いと思っています．ですが，もしかしたら，そういう人気授業とは別に，あまり人気ではないけれども，その先生だけは新しさに確信を持っている授業があるかもしれません．そういう授業の中に，みなさんの将来につながったり，みなさんの考えを広げるチャンスがあったりするかもしれません．本当の意味での新しさというのは，それから何年も経って，先生が話していたことが社会で広まって，はじめて見えてくるものです．大学の授業の場合，異質なものにチャレンジして「外れ」であっても，痛い目にあったり，損をしたりすることはありません．ですから，授業を選ぶときには，みなに合わせるというだけでなく，自分なりに気になる科目があれば履修してみて，先生の熱量と確信が段違いだと感じられれば，いつもよりも少しだけ，熱心に耳を傾けてほしいと思っています．

テーマを自分で選ぶ

自分にとって新しく，異質なテーマにチャレンジすることは，皆さんが社会学部でいろいろなレポートを書いたり，最終的に卒業論文を書き上げたりする上でも大事なことだと

思います．

社会学部でレポート等を書く際，自分である程度自由にテーマを選べることがしばしばあります．この「自由」というのがくせものです．教員が与えるテーマだったら，そのテーマを研究する意義は教員が保証してくれるわけです．ところが，自分で選ぶということは，その選択に対して自分が説明しないといけない，責任を取らなければいけないということでもあります．

その時に，自分や周囲にとって身近なテーマを選ぶことも，社会学部ならではの学びだと思いますが，今の自分にとって少し異質なテーマ，今の自分から見たら多少距離はあるけれども，気になるテーマにチャレンジすることも意義が大きいと思います．最終的にそのテーマに対して自分なりの確信を持って取り組めるようになり，自分はこういうことをやっていて面白いんだよ，と人に話せるようになること，そして相手からも，この人がこれだけ言うんだから，きっと重要な話なんだなと聞いてもらえるようになることも，とても実りの大きい学びだと思います．

半年とか１年とか，長い時間をかけて卒業論文を書くことの意味は何かを考えると，長い文章を書きあげること自体が重要な経験ですが，それに加えて，長い期間，ひとつのテーマ，ひとつのプロジェクトを持ち続けるという経験が重要だと思っています．会社に入るにしても，大学院に進んで研究を続けるにしても，何か新しいことや，大きいことをやろうとすると，その途中ではいろいろな壁があり，それでも自分だけは自分のやっていることに確信をもって進んでいかないといけない場面が出てきます．そのような時に，もちろん迷いながらでもいいのですが，芯は曲げずに進んでいけるかが大事だと思います．

今後の社会学部での学びを通じて，みなさんが自分にとって異質なものに挑戦する機会，そして，確信をもってやり通す経験を重ねられることを願っています．

（社会学部教授）

2023. 6. 22（木）

先人との歴史的つながり：バンクーバーで考えたこと

寺　沢　拓　敬

はじめに

私は，現在，大教室での講義は持っておらず，また，昨年度サバティカルで関学にはいなかったので，私のことをご存じない方も多いかもしれません．今日は，このサバティカルの話，カナダ・バンクーバーでの滞在について経験したこと・考えたことをお話ししたいと思います．

バンクーバーという都市はご存じでしょうか．バンクーバーは旅行や留学の点と，あとは社会学的にも有名な都市だと思うのですけれども，世界史や地理にはあまり出てこない場所なので，ご存じない方もいるかもしれません．カナダの西海岸をイメージできますか．ロサンゼルスやカリフォルニアがイメージできる方は，カリフォルニアから北のほうにずっと上がっていって，アメリカからカナダに国境を渡ったすぐの所にある都市です．

家探しと人の縁

海外での生活自体は経験があるのですけれども，私のこのサバティカルの大きなチャレンジは，家族で初めて行ったことです．妻と４歳になる娘と行ったことが非常に大きなチャレンジでした．１人で留学した時には，家は簡単に見つけられました．日本にいる時から大学の寮に E メールで「入れてください」と言ったら簡単に決まりました．ですが，今回のサバティカルでは，ものすごく苦労しました．家探しとはこんなに大変なものか，特に海外での家探しとはこんなに大変なものかというのを実感しました．

まず，部屋を見つける上でネックになるのは，日本と違って家賃がものすごく高いです．西宮のイメージからすると，大ざっぱに言って２倍，３倍，あと円安の影響もあって４倍，５倍くらいの家賃を想像していただければと思います．家賃は頑張って後でお金を稼いで，この１年間はどんどん使うぞと覚悟すれば済む話なのですけれども，もっと深刻なのがそもそも家がないことですね．そもそも，たとえば SUUMO のような不動産ポータルネットがカナダにはないので，全部家主に自分でメールを打ったり，交渉をしなければいけないという面倒さがあります．

家が見つからないままカナダに渡航して，ホテル暮らしをしながら部屋を探したという感じで，大変苦労しました．これは私だけではなくて，カナダや北米に移住あるいは短期滞在する人がみんな苦労しているという話です．住宅危機と呼んでる人がいるほど大変な状況にあります．

最終的には，何とか見つかったのですけれども，それはどうやって見つけたかというと，人脈です．言い換えれば，コネです．本来は賃貸物件ではなかった部屋を，特別に，「知り合いの知り合いだから」という信用貸しの形で借りることができました．家自体は台湾の方の家だったのですけれども，間に入ってもらったのは日本人の方で，日本に共通の知人がいるという非常に偶然な，しかも西宮の出身の方で，それで信用してもらえるということで，何とか家を見つけて，私たちの新生活は始めることができました．

バンクーバーと日系人

バンクーバーは非常に日本人の多い土地です．特に留学やワーホリでは非常に有名で，実際，バンクーバーの町を歩くと，そこかしこから日本語が聞こえてきます．有名な方でいうと，お笑い芸人の光浦靖子さんが，今バンクーバーに住んでいて，私は近所に住んでいたらしいのですけれども，結局お会いすることはできませんでした．

今，バンクーバー在住の日本人のお話をしましたが，今お話ししていたのはごく最近，短期滞在者としてやってきた方，あるいは数十年前に日本から渡ってきた永住者や移住者がほとんどです．ですが，バンクーバーと日本の関係を考える上で，忘れてはいけないことが日系人の歴史がある街という点です．つまり，百数十年以上前から，日本からバンクーバーにはたくさんの日本人が移住して，そこで暮らしを営んでいた歴史があります．

海外移住と聞くと，たとえば，「カナダやアメリカでのんびり暮らしてます！」みたいなハイソな暮らしをついイメージしてしまいますが，当時の日系人の状況とは程遠いと思います．当時，日系移民は，漁業を中心としたブルーカラーに従事する人がほとんどでした．実際，そこでサケなどの漁業に携わって，非常に苦しい環境，しかも日本政府はほったらかしで，カナダという異国の地で自分たちの力だけで生活していかなければいけませんでした．実際，住環境や衛生環境も非常に劣悪だったということが知られています．

そして，環境だけではなく，そもそもカナダ政府から長い間差別されてきたという日系人の歴史があります．世界史で習った方もいるかもしれませんが，特に第二次世界大戦，カナダと日本は敵国同士になりましたので，その時の強制収容は非常にひどかったと言われています．

先人たちの「努力／日常」の結果，今がある

カナダは，現在，国際的に見ても，有色人種に対して非常に人種的に寛容で，日本と比べてもダイバーシティーの点で非常に進んだ土地と言われています．差別の少ない国であると国際的に評価されています．この進歩の結果は，日系人を含むカナダの有色人種の人々が反差別，差別と闘う姿勢を見せて，運動，闘争をしてきた結果であろうと思います．

ここで私は，日系人を含む有色人種と申し上げました．有色人種という点でいうと，カナダは日系人以上にいろいろなアジア人が多数います．例えば，面白い統計があるのですけれども，バンクーバーは有色人種のほうがむしろ多数派なのですね．カナダは白人の国というイメージがあるかもしれませんが，バ

ンクーバーはアジア人のほうが白人よりむしろ多いです．最近の統計では，有色人種 54 %で，その多くがアジア系で，一番多いのが中国系です．次がインド，パキスタン，バングラデシュなどの南アジア系です．そしてフィリピンと続きます．

そして，アジア系という統計には入っていませんけれども，北米，西海岸先住民，トーテムポールなどで有名な北米西海岸先住民も独自の権利を認められて存在感を発しています．私の住んでいる隣が北米先住民の居住地ということが普通にありました．

バンクーバーは今現在，住宅事情を除くと，非常に安心して暮らせます．実際，差別に遭う経験も少なくて，非常に治安も良くて，安心して暮らせます．しかも人種的にも優しいです．英語ができないと大変と思われるかもしれませんが，バンクーバー自体は非常に多様な英語も話されていて，ネーティブスピーカーではないような英語も話されていますし，そもそも英語がそんなにできない人も結構いるのです．英語がそんなにできない人も頑張って自分たちのビジネスシーンにおける英語のレパートリーをそろえることで，何とか仕事をやって，普通に仕事ができているという状況があります．

ということで，英語力の多様性－英語の多様性だけではなくて，英語「力」の多様性です－の点で，ノンネーティブスピーカーにとっても非常に住みやすいです．あと，いわゆる「変な英語」のようなものにも非常に寛容で，細かい文法ミスなどは指摘せず，コミュニケーションが取れればいという意味で，非常に住みやすい町かなと思います．

そして，もう 1 点付け加えると，食事が非常に快適です．海外旅行などでしばしばネタにされるのが，外国の sushi は寿司ではないという話があります．外国の sushi はまずいというような話がありますけれども，バンクーバーの sushi は普通においしかったです．きちんと統計を取ったわけではないのですけれども，バンクーバーは多分，西宮より寿司屋が多いです．寿司屋は 1 つのブランドのようになっていて，寿司屋をすればともかくもうかるような意識があるのかもしれませんが，非常に競争が激しくて，すし屋が非常に多く，クオリティーも高いです．

こうした素晴らしい食事の環境は，もちろん日系人コミュニティーがあっただけではなくて，日系人コミュニティーに併せてアジア系コミュニティーが，例えば中国系やインド系などのコミュニティーが存在したからこそだと思います．抽象的に言うと，先人たちの存在があったからこそだなと実感しました．この素晴らしい環境，暮らしやすい環境は，反差別闘争をした先人のおかげだったということはもちろんです．

ただ，同時に，ここで重要だと思うのは，そうした反差別闘争や反差別運動のようなものをしなかった普通の人々の存在そのものが，われわれの現在の暮らしやすい環境をつくっていったということです．これはどういうことかというと，そこで生まれて，そこで育ち，そこで仕事をして，そこで子育てをして，そこで死んでいくという普通の暮らしの積み重ね，こうした日々の積み重ねの歴史が，現代の私たちの暮らしをつくっているということが言えます．

本日は，あえて日本の話，西宮の話をしませんでした．あと，私たちの大学の歴史の話もしませんでしたが，私たちの暮らしが先人たちの存在そのものに依拠している，つまり

先人が生きてきた歴史，先人たちが運動してきた歴史だけではなくて，先人たちがそこに暮らしてきた歴史そのもの，事実，そうした重みに基づいて私たちの暮らしは出来上がっているのだなということに思いをはせていただければありがたいと思います．

（社会学部准教授）

2023. 6. 27（火）

フィクションと現実世界

松 宮 園 子

4 年目の「気づき」

2023 年度の春学期もあとひと月余りとなりました．今回は「コロナ後」というテーマをいただいたこともあり，恐縮な気もしますがコロナと共に始まった私自身の関西学院大学社会学部での日々，そして私にとっての「新たな出発」についてお話させていただきたいと思います．

私が本学に着任したのは 2020 年 4 月，ちょうど今 4 年生の皆さんと同じく，思いもかけない新生活のスタートでした．新任教員に対して通常は行われるという様々な式や会合もないまま，授業は 5 月始まりとなり，初めて使う LUNA に大騒ぎしながらオンライン授業の準備をしたことが思い出されます．本日お招きをいただきました打樋先生やベネディクト先生にも，お目にかかれるのは主にズームのスクリーンの中で，ようやくリアルでお会いする限られた機会には，映画の中の方とお会いしたような緊張が走ったものでした．

このような船出でしたが，いつの間にか 4 年目となったこの社会学部で，本当に遅まきながら「社会学部で文学や映画などのフィクションを教えること」について，改めて自分の中でアプローチ，説明の方法について考えなければいけないな，と最近強く感じています．何度かこのチャペルでもお話させていただいたとおり，私の専門は 20 世紀以降のイギリス小説で，大学の文学部，そして大学院の文学研究科で学び，それ以降も主には英語学科，あるいは英文科というところで教えてきました．そして無鉄砲にも新しい大きな世界に飛び込もうと決意し，大変有難いことにこの社会学部で受け入れていただいたのですが，1 年生の時からデータや社会調査についてみっちり学んでこられた社会学部の皆さんに，いきなり「興味を持った映画について論文を書いてみましょう」と言っても，なかなか大変だということがしみじみとわかってきました．

「真実の物語」にひそむフィルター

たとえば『ハリー・ポッター』のような魔法，あるいは宇宙人のように「現実ではあり得ないこと」が描かれている作品は，むしろまだ取り組みやすいかもしれません．難しいのは，「現実に起こっている問題」あるいは「現実に起きた出来事」が描かれている作品です．やはり社会学部の皆さんは現実社会への関心がとても高く，たとえば人種差別や経済格差などの問題に興味があるので，それら

が描かれている映画を選んでこられることが多いのです．ただ，たとえ「実話」を基にしていても，2時間余りの映画におさめるにあたって，脚本が書かれ，監督の指示のもとで演じる俳優が，多くのカメラによって撮影される中で，もちろん多くのフィクションの要素が入ります．私は授業でよく「フィルター」という言葉を使うのですが，フィルターを通した作品世界は，決定的に現実世界とは異なります．特に実話ジャンルの映画では宣伝文句として「真実の物語」という表現がよく使われますが，それは厳密には真実ではありません．

たとえば Netflix で放映されている『ザ・クラウン』というドラマ・シリーズは昨年逝去されたエリザベス 2 世女王の若き日からスタートし，最新シリーズでは英国王室の現役メンバーがよく似た俳優によって演じられ，一般人が知りえない彼らの内輪の会話や感情が事細かに描かれています．もちろん入手できる範囲の記録や取材に基づいた部分もありますが，完全にフィクション，つまり作り物の部分も多く，当然ながら王室メンバーやその周囲の人々について「事実に基づかないイメージを視聴者に与えてしまうこと」について，特に英国内では強い批判も寄せられています．

このような作品から何が学べるのか，という問いは確かに非常に難しいものです．英国王室についての学び，ということであれば，勿論調査や取材，時代考証等に基づいている限り，大まかな彼らのライフスタイルや行事，歴史について手っ取り早く，そして楽しく知識が吸収できることは確かです．しかし勿論皆さんは「これはドラマである」，すなわち「フィクションの部分が多い」ということをよく理解しており，「この部分は現実と異なる」「この部分は想像に過ぎない」ということを指摘して，さてそこから何を，どのように「研究」すれば良いか，というところで困ってしまうケースが多いように思います．

フィクションの価値

「事実」や「データ」に基づく「意見」あるいは「分析」「解釈」というパターンにあてはめると，「事実ではないフィクション」に基づいてどのような「意見」が出せるでしょうか．やや授業のようになってきてしまって恐縮なのですが，先ほど私は「作品世界は，決定的に現実世界とは異なる」と言いました．しかし，私は実はあまり「現実ではないもの」という目でフィクションを見ていません．ある時代，ある社会に確かに生きた人が文字や映像によって作り上げたものは，やはり確固とした一つの「現実」であり，その中に「実際とは異なる人物」，あるいはたとえ現実にはあり得ない生き物が出てきても，それは「解釈」を行い，「意見」を述べるに値する，と思います．もちろん『ザ・クラウン』が描くダイアナ妃が，実際に生きたダイアナ妃とは異なる，つまり「真実」でないことは重々承知なのですが，ドラマの中のダイアナ妃も 1 人の独立したキャラクターであり，私の頭の中で別個に生きる 1 人の人物となります．それは，本物のダイアナ妃の死後，失われたプリンセスを追い求め，探し続けてきた社会の人々の追慕の念や願望，時には欲望が反映された確固とした命であり，人物なのです

そろそろ，私自身が怪しい人物に聞こえて

きたかもしれないのですが，私にとってフィクションは，直接的に知りえない人々の感情，そして生き方を文字や映像によって教えてくれた非常に貴重な現実であり続けてきました．先日，カンヌ映画祭で役所広司さんが主演男優賞を得たことで話題となった映画『パーフェクト・デイズ』は，東京でトイレの清掃員をする主人公の日々を描いた作品ということです．『ザ・クラウン』とは正反対の世界であり，またこの主人公は完全なフィクションですが，しかし確かに現実に存在する，こうした本当に顧みられることが少ない職業に光を当て，そこから物語，一つの生命が生み出され，世界の人々の心にこの人物が記憶されたのは素晴らしいことに思え，日本での公開を楽しみにしています．

これから社会学部の中で，どのように皆さんにこのフィクションの面白さ，そして現実世界でのその価値をお伝えできるか，４年目の今も全く試行錯誤であり，きっと退職の日まで続く課題だと思うのですが，このコロナ後の世界，また新たな気持ちで挑戦し続けていけたらと願っています．

（社会学部教授）

2023. 6. 29（木）

他人に上手に迷惑をかけよう

村　田　泰　子

「求めなさい．そうすれば，与えられる．」（マタイによる福音書　７章７節）

今日は「心新たに　コロナ後の新しい出発」というテーマでお話をする機会をいただきました．わたしはコロナ禍の最後の１年間，イギリスで過ごしたので，そのときに考えたことについて，少しお話をさせていただけたらと思います．

コロナ禍のさなかのイギリス留学

みなさんにとって「コロナ禍」の始まりと終わりはいつだったでしょうか．おそらく多くの人が，コロナ禍の始まりは 2020 年３月，学校や保育所が突如休校になったときで，コロナ禍の終わりはコロナの扱いが感染症５類に変更され，マスクの着用が個人の判断に委ねられるようになった今年の春ごろではなかったかと思います．

わたしにとってのコロナ禍は，それより１年早く終わりました．というのも，わたしは関学の在外研究制度で 2022 年４月からの１年間，イギリスはマンチェスター市に行かせてもらって，研究をしてきました．そのため日本でコロナ禍と言われる３年間のうち，最後の１年間はイギリスで過ごしたことになります．

みなさんも耳にされたことがあるかもしれませんが，イギリスのコロナ対策はユニークでした．イギリスでは初期には行動規制を敷かず，「集団免疫」を獲得するという独自の路線をとっていました．コロナが爆発的に増えてからは，ほかの国同様，厳しく長いロックダウン政策を行いましたが，その解除の決断も早く，2021 年７月には世界に先駆けて規制緩和を敢行しました．わたしがイギリスに留学することができたのも，そのお陰ということになります．

わたしがイギリスに着いたとき，すでに規制が緩和されて半年が経っていました．最初は戸惑うことも多かったです．飛行機でマンチェスター空港に到着し，空港から電車で１時間，マンチェスター駅に降り立つと，もはや誰一人マスクをしていなかったのには驚きました．イギリスには当時中学３年生の娘と小学３年生の息子を連れていったのですが，娘と顔を見合わせ，恐る恐るマスクを外したときのことは，今でもよく憶えています．

部屋が見つからない

でも，今日お話したいのは，コロナに直接かかわる話ではなく，イギリスに到着してまもなく経験した，家探しの苦労の話なんです．今回，子連れの留学だったこともあり，最初から最後まで，苦労の連続でした．家探しの苦労のほかに，子どもの学校探しの苦労，冬場にシャワーのお湯が出なくなった苦労など，いろいろなことありました．なかでも一番大変で，一番自分を見つめ直す機会となったのが，家探しの苦労だったんです．

イギリスに行くまえは，家ぐらいすぐに見つかると思っていました．わたしは若いころから何度かイギリスには長期滞在したことがありました．独身時代，留学したときには大学が用意してくれた寮に住んだので，困ることはありませんでした．また，結婚してから2年間は家族とマンチェスターに住んだのですが，そのときは夫が一緒だったから，やはり家のことでわたし自身が苦労することはありませんでした．

今回，コロナ禍のさなかということで不安はあったし，イギリスの住宅市場は慢性的な物件不足で，大変らしいということは聞いていました．ロシアのウクライナ侵攻による燃料費の高騰のニュースも流れてきました．でも，自分は大丈夫と思っていました．だって，わたしはイギリスに住んだことがあるし，英語も話せる．そんなに物おじする性格でもない．いざとなったら日本でもそうしたように，少しお金を出せば部屋ぐらいすぐに見つかるだろう，そう思っていました．だからホテルも1週間しか予約していませんでした．

ところが，いざフタを開けてみると，家探しは予想もしなかったほど難航しました．最初はホテルの部屋から，不動産屋にメールで問い合わせをしていましたが，何の返信もないので電話に切り替えました．自分たちは3人家族で，こういう地域で，こういう条件の家を借りたいと伝えるのですが，今は物件がない，また連絡すると言われ，その後連絡は来ませんでした．仕方ないので，町の不動産屋を一軒一軒，しらみつぶしに訪問していくやり方に変えたのですが，やはり相手にしてもらえませんでした．稀にこちらの条件に合う部屋があっても，先に誰かが契約をしてしまったりと，とにかく決まりませんでした．唯一，借りることができたのは家具無しのアパートでしたが，それは大変不便なのでやめました．

そうこうしているうちに1週間が過ぎ，ホテルから，Airbnb という個人が部屋貸しをするタイプの宿泊施設に移り，部屋探しをつづけました．そこの滞在も，2週間，また2週間と延びましたが，それでも決まりません．

あまりに決まらないものだから，これは差別ではないかと腹を立てたこともありました．わたしの英語が下手だから，外国人だから差別されているのではないか．あるいは夫が一緒にいないから，子どもを連れているから差別されているのではないか．しかしそのうち，だんだんとわかってきたのは，そうした個人的事情に加え，契約期間や契約書類などの面でも，自分があまり望ましい借り手ではなかったということでした．

というのも，貸主の多くは2年以上の長期契約を望んでいましたが，わたしは1年に満たない滞在でした．イギリスは賃貸契約にかんする法律が改正され，貸主は賃貸契約

が終了するたび，部屋の修復を義務付けられるようになったとのことでした．

また，契約時には，雇用証明の書類が求められましたが，それも出すことができませんでした．日本では関西学院大学に勤務していると言えば，社会的にも信頼され，家を借りるのに苦労したことはありませんが，イギリスでの雇用証明が要ると言われました．加えて，前の貸主からのリファレンス（紹介状）が必要と言われたが，そんなものは出せるはずもありません．

ちなみに，日本の不動産屋さんは親切ですよね．不動産屋さんに行って，こういう部屋が欲しいと言えば，はいはいと身を乗り出すようにして相談に乗ってくれ，あれはどうですか，これはどうですかと次々と勧めてくれるけれど，イギリスでは全然そんな感じではありませんでした．とくかく物件不足で，借り手は弱い立場に置かれていると感じました．

他人に頼ることができないわたし

さらに事態を悪くしたのは，子どもの学校の問題でした．イギリスでは，住所が決まり，カウンシル・タックスと言われる住民税を払ってはじめて現地の学校に入学申請ができるのですが，学校に申請さえできない状態がつづきました．子どもたちもだんだんストレスを溜め，とくに上の娘は思春期真っただ中だったこともあり，本当に大変でした．最後はもう，いろいろなことをあきらめ，Airbnb で借りていた，狭くて暗い，半地下の家に決めようと思うと子どもたちに話しました．その夜は情けなくて泣きました．

このとき，わたしがイヤになるほど身に染みて感じたのは，自分がいかに，ひとに助けを求めることができない人間であるかということです．わたしはこんなに困っているのに，誰かに自分の状況を話したり，助けを求めたりすることができない．そういう自分を発見し，驚きました．イギリスに渡って３ヶ月，自分でも一番驚いたことでした．

じつは，周りには，わたしの状況を心配してくれているひとが，まったくいなかったわけではなかったのです．わたしの受け入れ教員だったマンチェスター大学のヴァネッサ・メイ先生は，「泰子どうしてる？いつ大学に来る？」と連絡をくれていました．大学には，すでにわたしの机と椅子，PC も用意されていました．もし大学に来るのがむずかしいなら，自転車でそっちに行くから，一度会ってご飯を食べようとも言ってくれていたのですが，わたしは「大丈夫，もうすぐ決まるから，ちょっと待って」と言って，会うのを先延ばしにしました．わたしは，家探しのような基本的なことさえできない情けない自分を，ひとに知られたくなかったのです．わたしのつまらないプライドが邪魔をしました．

「A さんごめん，助けて！」

最終的にわたしを救ってくれたのは，現地に住む日本人の友だちでした．15 年前，家族でマンチェスターに滞在したとき，同じ時期に子どもを出産した A さんとは家族ぐるみのつきあいでした．A さんはイギリスの大学を卒業後，イギリス人の男性と結婚をして，マンチェスターに 15 年以上住んで子育てをしていました．そんな知り合いがいたなら最初から頼ればよかったと思われるかもしれませんが，できませんでした．このような

情けない状態で，一方的に世話になるなんてできない，もっとちゃんと環境を整えて，対等に付き合えるようになってから，連絡をしようと思っていました．

そんなある夜，A さんが，「泰子さん，一度夕飯食べにおいでよ」と誘ってくれて，家にお邪魔しました．夕飯のあと，ワインをいただきながら，A さんと A さんの旦那さんのまえで現在の状況を話したら，「泰子さん，頼ってよ！」と怒られました．そこでようやく「助けて」と言えて，自分でも心底ほっとしました．

再度スタート

そういうわけで，A さんとともに，再度家探しがスタートしました．A さんは仕事もしていて忙しいなか，休みを取って車で不動産屋を回ってくれました．彼女はまた，わたしの家探しの仕方の悪い点を教えてくれました．まず，一般的な不動産屋ではなく，プライベート・ランドロードといって，不動産屋を介さず個人で貸しているひとを狙うべきと言って，専用のウェブサイトを教えてくれました．なるほど，そうすれば面倒な証明書類が不要になります．また，交渉に際しては，泰子さんは押しが弱すぎる，使えるものは何でも使えと言われました．たとえばデポジットを多く払う，家賃の半年分前払いをするなど，大家さんへのメリットを示せと言われて，そうしました．また，アカデミアであることを強調しろと言われて，そうしました．

また，対象地域を大幅に広げました．最初はディズベリーという南部のミドルクラスの集住区とその近辺で探していたけれど，ここいらもいい地域よと，いくつも別の候補地を教えてくれました．家の広さや間取りも，家族が集うリビングだけそこそこ広さがあれば，あとは目をつぶれと言われて，2LDK も視野に入れて探すことにしました．

そうして探し始めて数日目，オールド・トラフォードというムスリム系住民が多く暮らす地域で，パキスタン系イギリス人の家の 3 階部分を改造して貸し出している物件に出会い，交渉し，とんとん拍子で部屋が決まりました．入居したのは 5 月の中旬になっていました．

ちなみに，下の子どもの学校も，A さんの知り合いの日本人女性の夫がオールド・トラフォードでカソリック系の小学校の副校長をしているから口を利いてあげるというので，お世話になりました．上の子どもの学校はそこからさらに 1 ヶ月ほど待って，やっと決まりました．

他人に上手に迷惑をかけよう

このときの一連の経験をつうじて考えたのは，やはり，自分がいかに周りに助けてと言えなかったのかという，そのことです．わたしは自分のことをオープンな性格だと思っていましたが，自分にそのような一面があったことは驚きでした．

それは 1 つには，コロナ禍の影響もあって，長いあいだ人とつながることを制限されて生活してきた，その影響も少しはあったかもしれません．しかしそれ以上に，日本という国で，わたしが長い時間をつけて身につけてきた身の処し方のほうが深くかかわっていたと思います．

日本ではよく，人に迷惑をかけてはいけな

いという言葉を耳にします．皆さんもそう言われて育ってきたのではないでしょうか．わたし自身も母からよく，人に迷惑をかけてはいけないと言われて育ってきました．でもそれって，どうなんでしょう．

考えてみれば，日本にいるときには，実際，他人に迷惑をかけずにやれていたところはあります．わたしは日本では，仕事を持ち，家族や友だちもいて，生活で困ることはほとんどありませんでした．しかしいざ外国に行って，何も持たない身になり，目の前の試練にたった一人で立ち向かわなければならなかったときに，ひとの助けなくしては何もできない無力な自分がいました．

わたしは実際，ひとを助けることは好きなのです．職業柄もありますが，困っているひとがいたら「いいよいいよ，やってあげる」と言って，誰かの力になることは楽しいことです．でもその一方で，自分が助けられることは，嫌いだったんですね．それはゆがんでいたと思います．

というわけで，そろそろ時間が来るので，これで終わろうと思います．今日はみなさんに，他人に迷惑をかけるなではなく，上手にひとに頼って，上手に迷惑をかけて大学生活を送っていただきたいということをお伝えして，終わりにしたいと思います．ありがとうございました．

（社会学部教授）

Ⅲ．イエスのたとえ話から

2023. 7. 6（木）

「私のものは全部お前のものだ」

Timothy O. Benedict

> すると，父親は言った．『子よ，お前はいつも私と一緒にいる．わたしのものは全部お前のものだ．だが，お前のあの弟は死んでいたのに生き返った．いなくなっていたのに見つかったのだ．祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか．』
>
> （ルカによる福音書　15 章 31-32）

放蕩息子のたとえ

皆さん，おはようございます．お元気でしょうか．今月のチャペルテーマはイエスのたとえ話についてです．当初，私は「良いサマリア人」のたとえ話についてお話しをするつもりでしたが，その話は火曜日に岩野先生（神学部）に既に取り上げられたので，別の話を取り上げるのがベストだと思い，今日は急遽，別のたとえ話しを選択することにしました．そこで，今日選んだお話しは放蕩息子の話です．

この話はとても有名ですが，聞いたことがある人は何人ぐらいますでしょうか．私自身は幼い頃から教会で何回も聞いたお話しですが，正直に言うと長い間，このお話の中で腑に落ちないところがありました．今日は，なぜ私がこのお話しに戸惑いを感じたのか，そしてこの物語の一般的な解釈とは異なるメッセージが実は伝えられていることについてお話ししたいと思います．

父の財産を浪費する弟

まず内容の確認ですが，放蕩息子というのは二人の息子のうちの弟で，父親の財産の半分を持ち出し，無謀にすべて自分のために浪費してしまいます．やがて彼はどん底に落ち，父からの許しをこうために家に戻ることを決意します．驚くことに，父親は大喜びで，両手を大きく広げて息子を抱きしめ，帰ってきたことを心から歓迎します．そしてさらに，パーティーまで開きます．しかも，「肥えた牛」を屠ったと書いてあります．当時の社会では肥えた牛は本当に特別な時にしか食べないものでした．そして，家族だけではなく地域全体のために盛大なパーティーを開く時に食べるものでした．この父親の行動は，過去の過ちや罪にもかかわらず，私たちに対する神の無条件の愛と美しい赦しを表すストーリーです．「ああ，なんて素敵なお父

さん」と感動できるようなお話しです．この側面については，私にも理解でき，納得できます．

努力する兄の葛藤

ただ，そのあとが問題です．私がいつも戸惑っていたのは，このお話の後半です．このお話は「放蕩息子の例え」と勝手にタイトルがつけられていますが，実はこのお話の主人公は二人います．お話の前半には放蕩息子が取り上げられますが，後半からは長男の反応について詳しく書かれています．ここでみなさんに注意して欲しいのは，イエスがこのお話しをされたとき，特に強調したかったのは実はお兄さんの態度であることです．なぜなら，このお話はあるグループの人たちに向けて語られたからです．今日の聖書箇所の 15 章の冒頭にも記してありますが，当時イエスはしょっちゅう，いわゆる罪人と食事をして時間を過ごしていました．そして，これに対してイエスを批判した宗教者がいたと書いてあります．この宗教者はユダヤ教のリーダーで神様が定めた律法を厳格に守る人々でした．そして，この人たちはイエスになぜ，律法を守らない人々とたくさん時間過ごしているのかを聞いてきたのです．そして，その問いに対してのイエスの回答はこのたとえ話でした．

では，兄のお話に戻りますが，この長男は忠実で，父の願いを真面目に果たしていました．そしてこの兄は，道を踏み外した弟を讃える豪華なパーティーを見て非常に不公平に思うわけです．私もこのお話しを聞く時，この兄の反応に同情できます．彼の立場になれば，誰だって不公平に感じるのではないでしょうか．頑張って何も悪いことをしていないのに，なんで彼は報われないのか？そして彼はこのことについて父親を責めます．それに対して父親は，一度行方不明になった息子が戻ってきたのだから，このお祝いは当然のことだと説明しようとします．しかし，この説明に兄がどれくらい納得しているかは記してありません．私もあまり納得できないです．放蕩息子が帰ってきたのはよかったですし，その息子を許してくれた父親も素晴らしいですが，なぜ真面目なお兄さんだけは報われないのかが，気になります．どうしても不公平に感じてしまいます．

実は同じ心を持つ兄弟

ただ，このお兄さんの態度をよくよく考えると，このお話を通してイエスは何を言いたいのかが，少しずつわかってくるきがします．というのは，このお兄さんは父親が戻ってきた息子に対して大いに喜んでいたことは十分に理解できたはずです．「肥えた牛」をほふるほどのパーティーですので，父親にとってはこの日は人生の中の最高の日と感じていたに違いありません．では，これを見ていたお兄さんはなぜ一緒に喜べなかったかというと，結局彼は父親を喜ばせたい心は本当になかったからです．彼は建前上では父親を喜ばせるために一生懸命に働いていましたが，父親が人生の中で一番喜ぶ日がいざ来ると，一緒に喜ぶどころか，怒ってしまいます．

弟は父親の財産を欲しがって，それを前もって要求しました．ただ，お兄さんも結局父の財産を同じく狙って，その財産をもらえる

ように努力をしていました．どっちもどっちということです．結局二人の息子は違う手段を利用しながら父親の財産を狙って，自己中心的な考えを持っていたことがこのお話しから伺えます．

このように考えると，イエスはこのたとえ話を通して，律法を真面目に守ろうとしていた人にとてもショッキングなメッセージを伝えようとしていました．イエスが強調したかったのは，正しい行いと努力によって神の好意を得ようとする人は放蕩息子と同じぐらい，もしくは放蕩息子以上に間違っているということでした．結局，どの息子も自分の望むものを得るために父親を利用しようとしていただけなのです．

神様の愛は努力によらない

さて，皆さんはこのお話を聞いてどのように思ったでしょうか．ここで一つ覚えてほしいことは，放蕩息子の物語は単なる赦しの物語にとどまらないということです．このたとえ話では，当時の人と今の私たちにもとても急進的なことを教えています．私たちが神様からいただける愛と報いは努力と関係がないことです．この聖書箇所の最後に父親は次のようにお兄さんに話しかけます．「私のものは全部お前のものだ．」つまり，この息子は息子である以上，既に父親からの財産をいただく権限があったのです．彼の努力と無関係だったのです．

と言うことで，真面目そうに見える皆様にもぜひ，自分は毎日どんな心で頑張っているかを考えていただきたいです．もちろん学業において努力は不可欠ですし，それに対して報われることも当然です．ただ，お兄さんのようにそれを全てにしてしまうとさらに大事な喜びを見失う可能性があります．あと数週間で定期試験のシーズンに入りますが，自分の成功と報いだけではなく，周りの人の成功にも喜べるように心に余裕を持ってほしいです．その心の余裕はどこからくるのでしょうか？聖書には私たち人間は神の子供になる特権が無条件で与えられていると教えています．さらに，それを受け取るには，努力ではなく，素直に自分は神様に愛されて造られたことを喜んで受け取る心だけが必要と教えています．ぜひ皆様にもこの祝福を体験する人生を送って頂けたらと願っています．

（社会学部准教授）

2023. 7. 19（水）

毒麦のたとえ－待つことの大切さ

打　樋　啓　史

イエスは，別のたとえを持ち出して言われた．「天の国は次のようにたとえられる．ある人が良い種を畑に蒔いた．人々が眠っている間に，敵が来て，麦の中に毒麦を蒔いて行った．芽が出て，実ってみると，毒麦も現れた．僕たちが主人のところに来て言った．『だんなさま，畑には良い種をお蒔きになったではありませんか．どこから毒麦が入ったのでしょう．』主人は，『敵の仕業だ』と言った．そこで，僕たちが，『では，行って抜き集めておきましょうか』と言うと，主人は言った．『いや，毒麦を集めるとき，麦まで一緒に抜くかもしれない．刈り入れまで，両方とも育つままにしておきなさい．刈り入れの時，「まず毒麦を集め，焼くために束にし，麦の方は集めて倉に入れなさい」と，刈り取る者に言いつけよう．』」（マタイによる福音書　13 章 24-30 節）

待つことが難しい社会

春学期の授業もあとわずかとなりましたが，皆さんは今学期を振り返ってどのような気持ちでしょうか．特に 1 年生は，大学生活の最初の学期が充実していたという人もいれば，期待どおりに進まなくて，「なんかイマイチだった」という人もいるかもしれません．また，あっという間に 1 学期が過ぎてしまい，焦っている人もいるかもしれません．7 月は「イエスのたとえ」シリーズを続けてきましたが，今日はシリーズ最後のものとして，「焦らないこと」「待つことの大切さ」というテーマでお話ししたいと思います．

たとえ話の内容に入る前に，そもそも今の日本社会は，焦らずに待つこと，信頼して待つことが難しい社会だと思いませんか．将来はどうなるか分からないけど，期待してわくわくしながら憧れて待ち望むということが，どんどん難しくなっているような気がします．それが馬鹿らしく感じられてしまうような，「希望のない社会」とよく言われます．

今ここでの成果や結果や数字などが，やたらと求められるのです．それらに縛られて，心を大きく広げて待つことができなくなっている，そういう社会になっているのではないかと感じます．皆が必死で，今ここでの成果を握り締めようと焦ることで，ギスギスした社会になっているということです．

猛烈に早いスピードで色々なことが営まれていますよね．24 時間いつでも何でもすぐ

に買える生活です．私が学生の頃には，今では当たり前になっているコンビニも携帯もありませんでした．想像してみてください．コンビニも携帯もない生活です．私自身今はそれらを活用して，便利さに浸っていますが，考えてみればそれらがなかった頃も大いに楽しく過ごしていました．

そのような，いつでもどこでも人と連絡が取れたり，いつでも欲しいものが手に入ったりするのは便利で快適なことかもしれませんが，その中で人間はどんどんせっかちになっていきます．「待っている暇があったら先手を打つべきだ」という考え方が幅を利かせるようになっていきます．待つことがただ不毛に感じられて，待たずにすむことこそが成功である，豊かさであるという感覚が社会に蔓延しているような気がします．

他者についての拙速な判断

そのようなことをテーマとして，今日は「毒麦のたとえ」をこのシリーズの最後に取り上げたいと思いました．ある人が畑に麦の種を蒔いた．その麦が成長していく過程で，普通の麦の種を蒔いたはずなのに，育ってくると毒麦が混じっているのが分かりました．畑の管理をしている人々はそれに困惑して，畑の主人に「どうしましょう，抜き取ってしまいましょうか」と言います．すると主人は，「放っておきなさい．育つままにしておきなさい．刈り入れの時に毒麦だとはっきりしたら，それだけを集めて燃やしてしまえばよい」と言った，という話です．

何を言っているのか分かりにくいですが，単純に考えると，「良くないと思われるものを焦ってすぐに根絶しようとしないで，取りあえず様子を見て待ってみよう」ということだと思われます．これを私たちの生活に当てはめて考えた時に，どんなことが言えるでしょうか．私たちも，「良くない」と思うものをすぐに抜き取ろうとすることがあるかもしれません．でも，少し様子を見ようということです．

三つのことを考えました．一つ目は他者または人間関係です．私自身のこれまでの経験からも，「人間関係で早まった判断をしないほうがいい」と皆さんに強く伝えたいと思います．待つことを忘れた文化の中に生きる私たちは，他者をそのように判断しがちです．自分の今の好みだけで，「あの人はいい人だ，悪い人だ」「あの人は好きだ，嫌いだ」など，また自分の都合で，「あの人は役に立つ，立たない」など，簡単に判断してしまいます．

授業についてもそうです．授業も教員という他者との出会いの場ですよね．皆が「面白い」と言っているから，「楽勝だ」と言っているからとそこに流れていき，誰も取っていないけど自分が「あの先生の授業は面白そうだな」と思う授業をあえて取ることはあまりない．ここでも，噂を鵜呑みにして，拙速に他者を判断しているのです．そうすることで，出会いの可能性を大いに狭めていることが，私にもありました．それで不必要な敵対関係を作ってしまったこともありました．その人をじっくりと知ろうとせずに，先入観だけで切り捨ててしまうのです．

しかし，私自身のこれまでを振り返ると，自分とは合わないと思っていた人が後で本当に尊い友になったり，その人と協力してすごくいい仕事ができたりというようなことが結構あったのです．毒麦だと思っていた人が，自分にとって良い麦になることがあると，自

分の出会いの体験からつくづく思います．

課題についての拙速な判断

二つ目は課題です．皆さんは学生としてやらなければならない色んな課題があります．学業もそうです．これも，今の自分の限られた経験の中で「役に立つ，立たない」と決めつけてそれを避けようとせずに，ひとまず目の前にある課題はそれとして受け止めてやってみる．これが大事だと思います．

恥ずかしい過去の話をします．私は関西学院中学部，高等部と進んで，大学では商学部に入学しました．商学部を卒業後は神学部に編入したのですが，商学部で第二外国語として選択したのがフランス語でした．当時はフランス語とドイツ語しかなかったのです．はっきり言えば，別にどちらにも関心がなくて，何となくフランス語のほうが格好よく思って選択したのですが，後で「ドイツ語のほうが簡単だ」と聞いて悔しく思いました．

そのようにフランス語を取ったのですが，その時は全く関心を持てなかったのです．「多分一生フランスに行くこともないだろう」と決めつけて，授業を受けても面白くないわけです．１年生の時は何とか単位取得しましたが，２年生の前期（今で言う春学期）フランス語Ⅱを履修した時に，そのクラスが１限だったんですね．学生時代，すごく朝は弱くて，休みがちになって，フランス語Ⅱは落としてしまったのです．落として当然のような落とし方だったんですが，２年生の後期（秋学期）に再履修して，さすがに留年がかかってくるのでかなり頑張って単位を取得しました．そうして集中して一生懸命やったおかげで，フランス語の文法もかなり身に付きました．

その後，神学部に進んで専門分野にしたのが古代・中世のキリスト教史でした．その分野ではフランスのカトリックの研究者が多くて，大学院で修士論文を書く時には，フランス語の論文をいくつも読む必要がありました．神学部では現代語の外国語科目は英語とドイツ語だけでしたが，私の研究に役立ったのが，商学部で再履修して取り組んだフランス語だったのです．その時の教科書を引っ張り出して読んでみたら，結構覚えていました．それで，もう一度文法をやり直して，何とかフランス語の論文を読めるようになりました．それがあったからこそ，自分なりには納得のいく修士論文が書けたのです．

さらにその後，研究の関係で，何度もフランスを訪れることになり，ついにはフランス語の小さな本を翻訳して出版することになったのです．自分にとって毒麦でしかなかったフランス語が，研究にとって必要不可欠なツールになり，人生を本当に豊かにしてくれました．「あの時にやっておいて良かった！」という話です．

皆さんも目の前にある課題について，自分の限られた体験の中では「意味がない」としか感じられないこともあるでしょうが，取りあえずやってみることをお勧めします．今は分からなくても，「何か意味があるかもしれない」と期待して，「待つ心」で取り組んでみるのです．取りあえず目の前のことを精一杯やっていたら，それが自分の予想を超えて何かにつながることがあると思います．

自分自身についての拙速な判断

「悪いように見える麦」を焦って抜いてし

まう危険についての三つ目のポイントは，「自分自身」に関することです．私たち一人一人の中に，良い麦もあれば，悪い麦や毒麦に見えるものもあると思います．「自分の中の毒麦を全部抜いてしまいたい」と心から願うことがあるかもしれません．でも，良い麦も悪いように見える麦も混在している，それが人間です．光もあれば闇もある．誇れる部分もあれば絶対に隠しておきたいこともある．それが人間だと思います．

私たちは悪いと思われる麦を抜いて，良い麦だけの自分にしたいと願うのですが，無理矢理そうすることによって，今日のたとえ話が伝えるように，自分の中の良い麦まで抜いてしまう危険があるのではないでしょうか．自分自身に関しても早まるべきではないのです．自分の中で最悪だと思っているものの中に最善のものが隠されていることがあります．逆に，自信満々で最善だと思っているものの中に最悪のものが潜んでいることもあります．

人間には最終的な判断はできないということです．それは神様に任せるしかありません．そのように神に委ねる時に，神は私たちを待つことの中で成長させてくださるのだと思います．まずは自分を丸ごと受け入れて，自分を超える大きなものに委ねてみる，そこから始まる何かがあります．

ジャニーズ WEST（現「WEST.」）を知っていますか．そのメンバーの中間淳太さんは社会学部の卒業生です．このグループの『僕らの理由』という歌があります．なぜ私が知っているかというと，キリスト教学の授業のコメントで学生が教えてくれたからです．今日のように「自分を受け入れる」という話をしていたら，「先生，この歌を聞いてみてください」とコメントに書いてくれて，聞いてみたら，とってもいい歌だったんですね．

「あなたが自分のことをどれだけ嫌いでも，僕はあなたのことを嫌いになれないよ」という歌詞・テーマです．恋愛の歌というよりは，「お兄ちゃんからの応援歌」のような感じのメッセージソングだと思いました．私の場合，聖書の伝える神様がそこに重なりました．「あなたがどれだけ自分のことを嫌いでも，私はあなたのことを愛している．嫌いになんかなれない．」聖書の中で，神様は繰り返し繰り返しそう語り掛けています．ですから，自分の中の悪い麦を無理やり抜く必要はありません．欠点を直す努力はあってもよいのでしょうが，それを無理矢理引っこ抜こうとしない，その感覚が大事だと思います．

終わりに

私は今まで，アジアの国々を多く旅してきました．インド，バングラデシュ，フィリピン，インドネシア，タイなどに行きました．それらの国々で何よりも学んだのは，待つことの大切さでした．日本と違って，待たざるを得ないことがいっぱいあるのです．乗り物は時間どおりに来ないし，豪雨が降ったら何もできなくなるし，予定どおりにならないことの連続．特にインドには３カ月滞在したので，日々何らからの形でそういう体験をしました．

それは決して楽なことではなく，「不便だな，嫌だな」と思うこともあったのですが，大事なことに気付く機会でもありました．待っていると，自分の限界が見えてくるのです．偉そうにして，自分の力で生きているよ

うに思いこんでいるけれど，実は色々なものに支えられて，色々なものを与えられて自分ははじめて生きているということを，そういう待たざるを得ない時の中で，リアルに感じることがありました．そこで学んだことは大きかったと思います．

忙しい世の中，「早く，早く！」「成果を出しなさい！」と言われて，多くの人が遠くを見る眼差しを失っていく中で，関西学院はキリスト教主義の学校として「遠い眼差し」を大切にしていきたいし，そこで学ぶ皆さんが，焦って毒麦を抜くのではなく，信頼して待つ心を大切にしながら，伸び伸びと色んなことに取り組んでいってほしいと願います．

（社会学部教授・宗教主事）

Ⅳ．人間らしさとは

2023. 10. 11（水）

内村鑑三の「ためらい」

赤　江　達　也

「拒否ではなく，ためらいである」

わたしは，日本のキリスト教を中心とする宗教の歴史社会学的な研究をしています．「人間らしさ」というテーマとの関連で，内村鑑三という人の話をしたいと思います．内村は，高校までの歴史教科書などに登場する数少ないキリスト教徒です．とくに明治なかばに起こった内村鑑三不敬事件は，日本近代史において欠くことができない重要なトピックであり，これからもそうだと思います．

内村鑑三不敬事件は 1891（明治 24）年に起こった出来事です．明治期には「近代天皇制」が形成されていくのですが，その過程で，国民（臣民）に対して，学校などの場で天皇儀礼が強要されるようになっていきます．そうした学校での天皇儀礼に対する最初期の「抵抗者」，敬礼を「拒否」した人物として，内村鑑三の名前が日本近代史に記録されているわけです．

わたしはこの出来事について，20 年ぐらい前からあれこれ書いたりしているのですけれども，内村鑑三がこの事件について語っていることは，すこし奇妙なのですね．なにを語っているのかというと，自分は天皇がサイン（署名）をした教育勅語に対するお辞儀・敬礼を拒否したのではない，そうではなく，お辞儀をためらったのだ，というのです．

これはなにも，内村が言い訳をしているというわけでもありません．内村は，アメリカの友人・ベルに宛てた英文の手紙のなかで，自分のふるまいは「拒否ではなく，ためらい（躊躇）なのだ」と，熱心に説明しています．日本の状況とは関わりのないアメリカの親しい友人に対して，自分のふるまいを「拒否はなく，ためらいなのだ」と説明する．そのときに，内村はなににこだわっているのでしょうか．

先ほど述べたように，日本史の教科書的な記述では，内村鑑三は「近代天皇制」の儀礼を「拒否」した英雄的な宗教的「抵抗者」として称賛されてきました．もちろんそれ自体は間違っているわけでもないのですが，内村自身が「ためらい」について述べている，そのこだわりのポイントとは，どこかずれているのですね．それはどういうことなのかが気になっているのです．

内村鑑三不敬事件

内村鑑三が「ためらい」にこだわった理由としては，まず，内村は教育勅語の内容に反対していたわけではない，ということがあります．事件以前には，皇室を日本の誇りとし

て論じており，天皇に対する敬意の表明についても基本的に賛同しています．したがって，教育勅語の儀式を「拒否」するつもりであったとは考えにくいのです（ただし，これはわたしの理解であり，内村は拒否するつもりだった，という説もあります）．

その日は，その学校で最初の儀式でした．数人ずつ，壇上に並んで，教育勅語のサインに対してお辞儀をするという儀式がはじまります．そのときに，教頭（校長代理）が，全員に対して「礼拝的」に最敬礼することを指示します．この教頭は内村とは折り合いが悪かったことが知られているので，この指示は，内村鑑三への嫌がらせであったかもしれません．じっさい，その指示は，きわめて効果的でした．

内村はまだ着任して数か月，謹厳なキリスト教徒として知られ，しかも熱烈な愛国者としても知られていました．全校の生徒や教員がならぶなか，壇上での「礼拝的」な最敬礼を指示されたことで，内村はむずかしい位置におかれます．内村の順番ははじめのほうで，「考える時間がありませんでした」（ベル宛書簡）．壇上にあがった内村は，すこし「ためらって」，それから軽く頭をさげます．しかし，内村のお辞儀は「最敬礼」には見えなかったようです．会場のなかで「不敬だ」といった声が上がり，騒然となって，内村はやりなおしを命じられます．ところが内村は，いや，自分はいま，お辞儀をした．すでにお辞儀をしたのだから，あらためてする必要はないとして，やりなおしを拒否するのです．

こうして，内村のふるまいをめぐって，第一高等中学校――現在の東京大学の 1，2 年生に当たるエリート学校――で大騒動が起こります．騒ぎはマスメディアを巻き込む大事件となり，そのなかで内村は学校を辞職させられます．その後，内村は著述家として成功して，宗教思想家として知られるようになっていきます．

しかし，あらためて考えてみると，この事件にはやはりよくわからないところがあります．内村が拒否したのは，お辞儀をすること自体というわけではなく，むしろ自分はお辞儀をした，というのです．そして，お辞儀をしたのだから，やりなおす必要はない，とやりなおしを拒否します．

事件直後から内村は重度の肺炎で寝込むのですが，その後も騒動が収まりませんでした．病床の内村は，校長からの説得を受けて，お辞儀のやりやおしを認めたといわれています．けっきょく，病床の内村に代わって，同僚のクリスチャン教員・木村駿吉が儀式をやりなおすのですが騒ぎは収まらず，結局，内村と木村が学校を辞職させられてしまいます．

内村は，儀式を拒否することによる決定的な衝突は避けようとしています．しかし，その一連のふるまいが，奇妙な頑固さ，ある種の「抵抗」を感じさせることもたしかです．こうした微妙な抵抗のあり方と，「拒否ではなく，ためらったのだ」という奇妙なこだわりには，なんらかの対応関係があるようにも思われます．

「小文字の抵抗」としての「ためらい」

わたしは，内村が「ためらい」にこだわったことには，重要な意義があると考えています．この時期以降，半世紀にわたって，ほとんどの人びとが――キリスト教徒もそうでな

い人も――生徒・学生や教師として学校を通過するなかで，「近代天皇制」の儀式を行っていくことになります．そうした儀式を明確に「拒否」した事例は，ほとんどみられません．キリスト教徒による「不敬事件」は各地で起こるのですが，その多くは非難するための「でっちあげ」に近いものであったことが知られています．その一方で，儀式に参加しながら，それに「ためらい」を感じていた人びとはあちこちにいたと考えられます．内村の「ためらい」は，そのような多くの人びとの経験について考える手がかりを与えてくれます．

内村がおかれていた状況を想像してみてください．どんどん進行していく儀式の場で，なにかがおかしいと感じたときに，どのようにふるまうことができるのか．明確に「拒否」するつもりがあるわけではないけれども，どうもいやなことをさせられているな，と感じたとき．そうした状況を想像してみると，内村が「拒否ではなく，ためらったのだ」という説明には，とてもリアルなところがあります．それを内村は「拒否」したのだ，と賞賛してしまうと，内村が直面していた困難のありかたがみえにくくなってしまいます．

そこでわたしは，内村のふるまいを「拒否」のような「大文字の抵抗」として捉えるだけではなく，「ためらい」のような「小文字の抵抗」として捉えてみる，ということを考えています．そうすると，戦前期の日本にも，さまざまな「抵抗」があったことがみえきます．たとえば，こうした儀式の場が次第に整備されていくと，のちには「不謹慎」な人びとへの批判が語られるようになります．こうした「不謹慎」は，自覚的な抵抗や批判というわけではないのですが，内村の「ためらい」とも共通するような「小文字の抵抗」として考えてみることができるのです．

現実への批判や抵抗というとき，わたしたちは「大文字の抵抗」を想像しやすい傾向をもっています．しかし，それだけではなく，「小文字の抵抗」についても考えてみると，さまざまな可能性が広がってみえてきます．それは，歴史的な過去についてだけではなく，現在についても意味をもっています．

わたしたちは，日常生活において，さまざまな制度や意味のなかを生きています．日常生活では，その場の「正しさ」を，とりあえず認めつつやっていくことになるわけですが，もしそこでなんらかの異和を感じたときには，その感覚にこだわり，自分で考えつづけてみること．内村鑑三の「ためらい」は，そのような微細な抵抗のモデルとなりうるのではないかと考えています．

（社会学部教授）

2023. 10. 12（木）

宗教と科学と人間らしさ

鈴 木 謙 介

ガリレオに謝罪したカトリック教会

「宇宙は第二の聖書である．この書物は数学の言葉で書かれている．」

これは，ガリレオ・ガリレイが残した言葉だと言われています．ご存知の通り，ガリレオは望遠鏡による観測と数学の計算によって，地球が太陽の周りを回っているという「地動説」を唱えた人物ですね．それまで，キリスト教の世界観では，ギリシャの哲学者アリストテレスの影響が強く，地球が世界の中心にあるという「天動説」が信じられていたわけですが，これをガリレオは，地動説のほうが数学的に正しいことを証明したわけです．

ところで，ガリレオ自身はキリスト教の神についてどう考えていたのでしょうか．実は，ガリレオより前に地動説を唱えたコペルニクスも，万有引力の法則を発見したニュートンも，そしてガリレオも，敬虔なキリスト教の信者であったことが知られています．なぜ彼らは，一見すると神の教えと矛盾するような物理法則の探求と，信仰を両立できたのでしょうか．

この問題について解説したのが，三田一郎さんの『科学者はなぜ神を信じるのか』という本です．著者は，物理学の研究者でありながらキリスト教の教師でもあるという異色の経歴の持ち主なんですが，三田さんによると，ガリレオやニュートンにとって，この世界は神様が作ったものだからこそ，数学的に美しい形で成り立っているはずであり，それを明らかにすることこそ，神の世界に近づくものだったというんですね．

物理学者ではないですけど，「我思う故に我あり」で知られるデカルトも同じことを考えていたと言われています．つまり彼らにとっては，聖書に書いてあることをそのまま信じるのではなく，神が作った完璧なはずの世界を，数学で表現することが，信仰そのものの実践だったんです．

ただ，当時のカトリック教会はガリレオの主張を認めず，異端審問にかけて有罪としたことも知られています．「それでも地球は動いている」と言ったかどうかは定かではないそうですが，少なくとも当時は，地球が動いていることを証明するのは神の教えに反する行為でした．

では現在はどうかというと，1980 年代になって「ガリレオ事件調査委員会」というのが設置され，1992 年に教皇ヨハネ・パウロ 2 世は，ガリレオを異端とした神学者たちが誤っていたことを認めて謝罪していま

す．ガリレオの死から 350 年もたっていましたが，少なくともこれによって，宗教と科学は矛盾するものではないという考え方が示されることになったんです．

科学的知識と聖書の解釈

とはいえ，実際に聖書に書かれていることと，現在の化学の知識はいろんな点で矛盾しますよね．旧約聖書の「創世記」には「神はご自分にかたどって人を創造された」とあります．また「ヨシュア記」には「日はとどまり，月は動きをやめた」とあり，これが天動説の根拠だと考えられてきました．

この科学と聖書の矛盾について，カトリック教会は，「科学の発展に合わせて聖書の解釈を変えることが大事だ」というガリレオの言葉を受け継ぎ，科学的知識と両立する聖書の解釈をするようになっています．たとえば「神が人を創造した」という聖書の記述は，ダーウィンの進化論と矛盾するわけですけれど，これについてカトリック教会は，こんなことを言っているんですね．

〈進化論の教説に関して，それが人間の身体の起源をそれ以前に存在していた生物から生じたとして探求する理論であるかぎりにおいて，研究と議論がおこなわれることを禁じてはいません．というのも，カトリックの信仰は人間の霊魂が天主によって直接に創造されることを信じるよう命じるからです〉
（1950 年 8 月 12 日に発表された教皇ピウス 12 世の提言）

つまり，人間の身体は，それ以前にいた生物から進化したものだとしても，人間に宿る「霊魂」は神が創造したものだから，聖書の記述とは矛盾しないというんです．
『科学者はなぜ神を信じるのか』の著者の三田さんも，面白い解釈をしています．旧約聖書には「はじめに，神は天地を創造された」とあります．では，ここで言う「天地」とは何なのかと彼は言うんですね．

普通に考えれば，僕らが立っているこの地上が「地」で，空に浮かぶ星が「天」に属する気がします．でも，と三田さんは言います．人類は月にロケットを飛ばし，そこに足跡を残した．だとするならそれはもう「地」と呼べるのではないか．あるいは，太陽が放出している物質は，すべて地球上にあるものと同じだということも分かっている．それなら，太陽だって「地」に属すると言えるじゃないか．

そうやって宇宙のすべてが分かるようになるにつれて，「地」とはこの宇宙全体のことであると言えるようになる．逆に「天」とは，物理学の世界では観測できない，まさに天国のことを指しているのではないか，そう解釈するんです．

神がいないと困る人々

どうでしょう．この説明を「こじつけだ」「無理がある」と考えた人も多いと思います．そこまでして宗教の教えと科学的知識の矛盾を解消しようとする意味はあるのか．宗教なんて非科学的なものを信じるのが間違っているという人もいるかもしれません．

でも，そうとも言えないんです．知っている人も多いと思いますが，アメリカではいま「進化論」を教えることに反対し，進化論だけでなく聖書の記述も本当のことかもしれな

いと，両論併記で教えることを義務化している州がいくつもあります．アメリカの世論調査では，「公立学校では天地創造説のみを教えるべきだ」とする回答者がいまだに全体の16% にも達しているというデータもあります．

あるいは，地球が丸いという考え方は間違っている，と主張する人たち．彼らは「フラットアーサー」と呼ばれています．データによると，アメリカの成人の 2% にあたる約600 万人が，フラットアーサーだと言われています．

こうした人たちは，なぜ僕たちからすると荒唐無稽な，既に科学で様々に証明された知識を否定して，聖書に書いてあることは一言一句その通りに受け取るべきだと考えるんでしょうか．反進化論者やフラットアーサーの中には，高学歴な人も少なくありません．だから，ただの勉強不足というわけでもないんですね．

宗教社会学の中では，宗教というのは，この世界の成り立ちを説明するものだとされています．たとえば僕たちは，科学で理解できることもあるかもしれないけれど，どうやっても納得のいく説明を得られないこともたくさんある．どうして好きな人と結ばれないのか，なぜ美しい見た目に生まれることができなかったのか，なぜ自分や大切な人がいつ死ぬかを，あらかじめ知ることができないのか．こうしたことについて，科学は何も教えてくれないんですね．

宗教は，それが科学的に立証されているかどうかとは別の原理で，その「納得のいかないこと」を説明してくれます．そしてそれを信じることは，様々なところで納得のいかないこの世界を受け入れ，なんとか生きていくための支柱になるかもしれない．

宗教が，そうした人々の，人間らしい悩み，苦しみに寄り添いながら，同時に科学的知識を受け入れようとするのは，すごく大事なことではないかと思います．僕たちは，科学を否定して現代を生きることはできないけれど，科学だけでも生きていくことはできないからです．

世界を拡張する「人間らしさ」

とはいえ，そうやって神様の言うことに支えを求めることだけが，人間らしい振る舞いだとは僕は思わないんです．今日の最初の話を思い出してください．ガリレオもニュートンも，この世界は神が作ったものであるという信念を貫いて，当時の神の教えに反する物理法則を発見しました．それは，「この世界の姿を明らかにしたい」という，もうひとつの「人間らしさ」の現れだと思うんです．

現代の世界では，宇宙のような遠い遠い世界の話だけでなく，いままで僕たちが生きてきた世界の前提を揺るがすような科学技術が目覚ましい勢いで発展しています．ロボットや AI が，人間と変わらないレベルでコミュニケーションをするようになり，人間が操縦しなくても，自動車が目的地まで自動運転するようになっている．クローン技術やバイオサイエンスの発達によって，人間が生命を創造する日も近づいている．そうした科学の発展に不安を感じて，技術の開発を止めるべきだという声も日に日に高まっていると思います．

それは，科学的な根拠に基づいた話というより，「それをやってしまうと，自分たちの信じている世界が揺らいでしまう」という不

安の表れではないでしょうか．先ほど話した，人間が猿から進化したことを受け入れてしまうと，自分の生きている世界が揺らぐと考えている人たちと同じところがあるかもしれません．

現代の不安は科学を知らないことから来ているのだから，いまの技術の発展に賛成すべきだという話ではないんです．けれど，この先の世界はどうなっているんだろうと一歩踏み出すのは，やっぱり人間のやむにやまれぬ欲求なんですよね．できれば，その欲求を止めないでほしい．

社会学という分野は，社会科学の一分野です．だから，この社会がどうなっているのかを調べて明らかにする使命を負っています．そんな社会学にはひとつの大きな弱点があるんです．それは，「多くの人はこの社会について，なんらかの考えをすでに持っている」ということです．だから，社会のことなんて調べなくても分かるし，そうに決まってると思い込んでいるところもある．

それはきっと，その方が楽だからですよね．

この社会は，ほんとうはどうなっているのだろうと考えるのは，結構しんどい．だからといって「こうに決まってるんだ」という思い込みの世界の中にとどまるのは，進化論を否定する人たちや地球が平らだと信じる人たちと変わらないかもしれない．神を信じながら世界の姿を明らかにしようとした科学者たちから学ぶことは，文系の僕たちにも，存外多いのかもしれません．

今日は，科学と宗教の関係についてお話ししました．ありがとうございました．

（社会学部准教授）

2023. 10. 17（火）

AI よりも人間らしくなる

清　水　裕　士

人間しかできないこと

「人間らしさとは」ということでお題を頂きました．最近，やはりいろいろ AI などがある中で，人間とはどのように考えていいのかということを話そうと思います．

私は，先ほど紹介があったように社会心理学を研究しています．社会心理というのは心理学の一分野です．では，心理学の中で人間らしさはどのように考えられているかのお話を最初にしてみようと思います．

まず，人間とは何だろうということなのですが，生物学的にはホモサピエンスという種になります．ホモサピエンスは大体 20 万年前ぐらいに進化して今の現生人類になっています．ホモサピエンスの中にもホモサピエンスサピエンスというのですけれどもね．いろいろヒト属はたくさんいます．ヒト属は 200 万年前ぐらいからいるのですけれども，今の人間らしいのは 20 万年ぐらい前と言われています．

その中で，人間しかできないことは何だろうということは，心理学の中でもたくさん議論があります．その中で一番典型的なのが言語の使用です．言葉を使うということです．言葉を使うためには，われわれはどのような能力が必要なのかということを，神経科学，あるいは比較発達，比較発達とは他の霊長類，チンパンジーなどと人間を比較する研究分野のことで，それらの分野で検討されています．これはただの豆知識なのですけれども，人間と霊長類は何が違うのか，それがどう言語使用に影響するかということは，たくさん実験があって，1 つ面白いと思うのは，（一つの説ですが）共同注視と言われています．どういうことかというと，人間は，例えば，お母さんが赤ちゃんに「ほら，あれ見て．あれリンゴだよ」と言った時に，お母さんは指を指します．その時に，赤ちゃんは指を指した先のリンゴを見ることができます．当たり前だと思うかしれませんけれども，犬にこれをやってみてください．指を見ます．それはそうですね．目の前に指を出されたら，それを見ますよね．共同注視とは何かというと，指している先を，その個体が何を見ているのかを認識してそれを見るのを共同注視と言います．これは，人間の赤ちゃんだったらすぐにできるのですけれども，他の動物だとできないという話もあります．そういうものが言語の獲得に影響しているのではないかと言われていて，他者がどのようなことを考えているかを想像する能力も大事だとは言われます．

言語と AI

あるいは，チョムスキーという言語学者は生成文法の理論を展開しました．小難しい話をするなと思うかもしれませんけれども，いろいろな話があるので，せっかくなので紹介したいと思います．生成文法の理論とは，人間には生まれながらにして普遍文法，すなわち人間の言葉を操る能力を持っているということです．例えば，皆さんが英語を習う時に，SVO や SVOC などがありますけれども，主語と述語の関係が，どの言語にも大体ありますよね．「私は」「走った」のような形で，語順が違うにしろ，人間は生まれながらにして文法を生成する能力を持っている，普遍文法を持っているのだという話があるわけです．

それはまことしやかに信じられてきたわけですが，ここでショッキングな出来事が ChatGPT の登場です．ChatGPT を使ったことがある人はいますか．意外に少ないですね．もっといるかと思ったのですが．ぜひ，面白いので使ってみてほしいのです．ものすごい自然な言語を話します．例えば，どのようなことに使えるかというと，悩み事相談もしてみたら，それなりに気の利いたことを言ってくれたりします．きのう友達にこのようなことを言われたのだけれども，どう思うかと聞いたら，それは大変ですねと結構優しい言葉を返してくれます．やはり一番よく使われるのが語学の翻訳でして，何かを訳したりするのにすごく便利です．

この ChatGPT は何がショッキングだったかというと，機械は当然，普遍文法は持っていないのです．60 テラぐらいの容量のウェブサイトの情報を全部読み込ませて学習しただけなのです．なので，人間にしかない脳のメカニズムなどというものは，まったく実装されていないのです．単純に学習しただけで，すごく自然な言葉を話せるようになったということが，言語学のほうでも，あるいは心理学のほうでも，かなり驚きとともに受け入れられて，今，言語学はもちろんですけれども，心理学でも，ChatGPT を使った研究がされています．

どのような研究をされているか，皆さん想像できますでしょうか．僕も初めて論文を見た時はびっくりしました．ChatGPT に心理学の実験をさせているのです．右を押しますか，左を押しますかと聞いて，左を押しますというようなことを，ChatGPT に実験をやらせているのです．何の意味があるのかと思うかもしれません．僕も半分そう思っていますけれども，ChatGPT のように言語を自由に操れる AI は，人間の心を部分的に映しているのではないかと信じられています．ChatGPT は電気さえ与えたら，いくらでも実験をやってくれます．すごく従順ですね．人間にずっと実験をやっていたら，せいぜい 1 時間が限度で，疲れたり，帰りたくなったりするのですけれども．もし，GPT たちが，人間の何かを映して実験をいくらでもしてくれるのだったら，これはすごいことなのではないかということで，研究がされているわけです．すなわち，AI というのは，人間の代わりになるのではないかと，心理学のほうでも結構真剣に議論をされて考えられています．これが言語学のほうでも大変な驚きとともに受け入れられています．

現代社会の人間と AI

では，人間だけが持っているものは何なのでしょうか．われわれは心の中で，こうしよう，ああしようと思って行動していると考えられているのですけれども，多分 ChatGPT は，話しかける前に，次に人間に話しかけられたら何を言おうかということは考えていないのです．単純に話しかけられた言葉に，学習した内容に基づいた反応をするだけなのです．それは，われわれが信じるところによると，人間っぽくはないのだけれども，言葉を見ていると，かなり人間っぽいような動きをするわけです．

では，その時に，この ChatGPT だけではなくて，ニューラルネットワークを使った AI というものが，人間の代わりになるという話が，社会でも大きく議論になっていると思います．皆さん，就職活動をすると思いますけれども，どうでしょう，AI に仕事が取られるかもしれないと考えることはありますか．まだ，多分ここにいる多くの人は，しばらくは AI に人間が取って代わられることなどないだろうと思っていると思うのですけれども，実は急速な勢いで人間の仕事は奪われています．実際，案外知的なところから奪われています．一番典型的なのは，銀行です．この企業にお金を貸すべきかどうかの判断は，ほぼ AI が今，行っています．それはそうですね．なぜかというと，企業の帳簿や売り上げなどいろいろな情報は，全て銀行は手に入れることができて，この後，この企業がもうかりそうかどうか，すなわちお金を返せそうかどうかの予測は AI が得意そうではないですか．そのような，銀行にとって最も重要な意思決定を，もう今，AI がやっているのです．関西学院も銀行への就職は強いと言われていますけれども，総合職の人がそれほど要らなくなっています．別に焦らせるつもりはないのですけれども，そのような形で，どんどん仕事が AI に取って代わられるということです．

うちの大学院のゼミでも，データサイエンスのほうに就職する院生が結構います．データサイエンスは今，花形の仕事なのですけれども，聞いたことがある人はいますか．いますね．データサイエンスはどのような業界なのかというと，データを使って企業の売り上げなどを予測したり，どのような介入をしたりすることを考える職種なのですけれども，これも今や AI をどう調整するかの仕事になりつつあります．すなわち，「AI 様」にうまく動いてもらうためのチューニングをやる仕事として，データサイエンスのほうではそういうところに多くの人材が採られています．花形に見えるデータサイエンスも，AI のために，下請けのような仕事をし出していることもあって，人間にしかできない仕事は何だろうというのが，今，問題になりつつあると思います．

かけがえのない人になる

皆さん，まだ 1 年生が多いと思うのですけれども，就職活動をする時にエントリーシートを書きますよね．その時に，自分しかできない仕事があるだろうと思って，皆さん多分仕事探しをすると思うのですけれども，往々にして，自分にしかできない仕事はあまりないです．大抵は誰だってできます．というか，誰だってできる仕事を用意している会社のほうが，むしろいいかもしれません．そ

の人しかできなかったら，その人がいなくなったら大変ですから．だから，属人的に仕事がならないように，うまく回るようにできているのです．でもやはり，われわれが就職活動をする時，人生をかけてやっている部分もあって，自分にしかできないことがあるのではないかと思って，自己分析なども多分やっていくと思うのです．その時に，では，自分しかできないことはなんでしょう．例えば，最近，藤井聡太が八冠になりましたね．藤井聡太のようにすごく天才的な棋士だったら，もう藤井聡太の代わりはいないと思うかもしれません．あのような天才になれたらいいのにな，と．それは，やはり他の人が，この人の代わりはいないと思うから，そういう人になりたいなと思うのですね．われわれ科学者も，このような研究者になれたらいいのだなと思うことはたくさんあります．その中で，でも，われわれはほとんどの人が凡人なので，それほど自分がかけがえのない存在になれるかというと，なかなかそうはならないのですね．

ここで，皆さんにすてきな研究を紹介したいと思います．進化心理学者のトゥービーとコスミデスの夫婦の 2 人が提案した理論で，人間がうまく生きていくためには，自分しかない能力を身に付けることが一番だと言いつつ，もう 1 個戦略があります．それは，他の誰かにとってかけがえのない人間になることだと言っています．全人類にかけがえがないと思ってもらう必要はないのです．実は，身近な人とかけがえのない関係を築くことができたら，生きていけます．生きていけるというのは，進化心理学なので，まさにホモサピエンス的な考え方です．狩猟採集の時代の中でも生きていけます．なので，われわれはかけがえのない人を探すように心が進化したのだと説明するわけです．

そろそろ締めないといけない時間ですね．では，人間らしさとは何かというと，実は，他の人にかけがえがないと思ってもらうことは結構重要なのではないかと思います．AI のことをかけがえがないと思っている人はあまりいないと思います．まさに交換可能であるからこそ AI なわけです．そういう交換可能な存在というのは，社会でこれから重宝されるはずなのです．しかし皆さんが，もし人間らしく生きていく時にどうすればいいか．もちろん自分が価値ある存在になるのが一番いいですね．しかし他にも方法があって，それが他の誰かにかけがえがないと思ってもらうことです．これはまさに大切な人に対して利他的になること，そのような人間関係をうまくつくるということです．なので，人間らしさは，実は脳の機能や能力ではなくて，その社会の中で他の人にどう思われるかではないでしょうか．それが，実はすなわち他の人がまさに自分を人間にしてくれているようなところがあるのではないかと思います．

最後に，建学の精神に結び付けるならば，例えば Mastery for Service という言葉がありますけれども，Mastery for Service は能力を高めることだけを言っているわけでは当然ないですよね．大事なのは価値ある存在になることだけではなくて，サービスをすることです．なので，誰かに何かを利他的に振る舞うために修練しよう，ということを言っているわけです．まさにこれが，AI などがあふれる社会の中で，どのようにわれわれが人間らしく生きていくかを教えてくれていると思ったという話で終わりたいと思います．

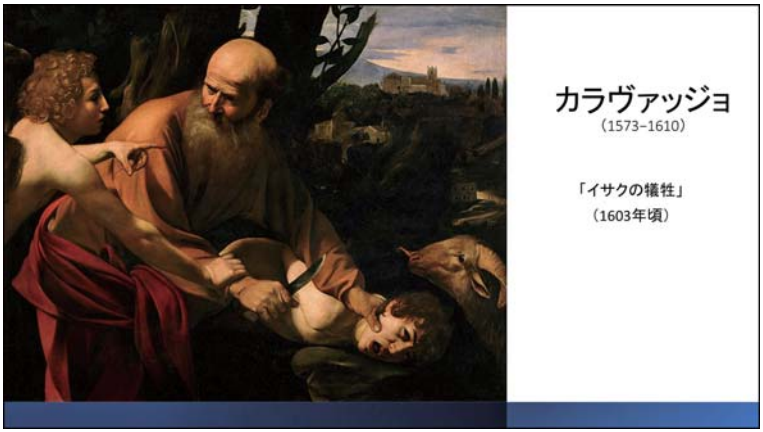
（社会学部教授）

2023. 10. 25（水）

人間の可能性としての超越

Hans Peter Liederbach

神が命じられた場所に着くと，アブラハムはそこに祭壇を築き，薪を並べ，息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた．そしてアブラハムは，手を伸ばして刃物を取り，息子を屠ろうとした．そのとき，天から主の御使いが，「アブラハム，アブラハム」と呼びかけた．彼が，「はい」と答えると，御使いは言った．「その子に手を下すな．何もしてはならない．あなたが神を畏れる者であることが，今，分かったからだ．あなたは，自分の独り子である息子すら，わたしにささげることを惜しまなかった．」（創世記　22 章 9-12 節）



はじめに

今回の聖書箇所では，神はアブラハムに一人息子のイザクをいけにえにささげるよう命じました．アブラハムがイスラエルの民の祖先であり，彼の息子をなくしてイスラエルの民は生まれなかったという点で重要です．聖書は，神はアブラハムの信仰の強さを試されたかったと述べています．そして，アブラハムの信仰の強さを確信した神は，最後の瞬間に，いけにえの実行を阻止します．

カラバッジオは有名な絵の中でこの物語のドラマを余すところなく表現しています．私たちはアブラハムの顔に宿る決心と恐怖にゆ

がむイザクの顔を見ます．そして，悲劇を防ぐためにナイフを持つアブラハムの手を握る神の使いが見えます．

枢軸時代における革命

ある解釈によれば，アブラハムとイザクの物語は，古代イスラエルにおける人身御供の終焉（しゅうえん）を物語っています．この終焉をもたらすために，神ご自身が使者を使わされたわけです．この物語は，いわゆる枢軸時代に書き留められました．枢軸時代というのは，ドイツの哲学者カール・ヤスパースが紀元前 800 年ごろから 100 年ごろまでをそう呼んだものであります．その間，人間の思想と想像力に革命が起こりました．この革命は，古代イスラエルだけではなくて，インド，ペルシャ，中国，ギリシャでも同時に起こりました．そして，さらに重要なのは，この革命が今日でも私たちの思考と想像力を左右しているということです．

では，この革命はどのようなものであったのでしょうか．要するに，この革命は超越という立場の発見にありました．仏教，儒教，古代ギリシャの形而上学にこの立場が見られます．日本語の超越はドイツ語の Transzendenz の訳語でもあります．これはまたラテン語に由来します．何かを超える，何かより高いところに着くというような意味です．この言葉の基本的な意味はさまざまに解釈することができます．

超越の三つの解釈

1 つの解釈は，旧約聖書の創世記の冒頭に見られます．ここで，神は無から世界，宇宙全体を創造します．つまり，神自身はこの世界に属するのではなくて，根本的な意味で超越的な存在なのです．

これはまた超越の第 2 の解釈につながります．一般的に言って，超越の立場は社会の既存の秩序および規範を疑う可能性を含んでいます．1 つの例はアブラハムとイザクの物語です．この物語は，さきに述べたように，古代イスラエルにおける人身御供の慣習の終焉を描いています．つまり，神の超越的な立場は，イスラエル社会の規範を巡る改革を可能にしたといえましょう．

もう 1 つのより近代的な例は，人権です．人権の超越性とは，既存の不正義を可視化することにあります．例えば，家父長制社会におけるジェンダーの不平等や，独裁政権における表現の自由の抑圧を可視化することができます．そして，これが超越の第 3 の解釈，すなわち普遍的な立場を可能にすることにつながります．人権がヨーロッパの啓蒙（けいもう）思想にさかのぼることは事実です．人権は，この意味では，局所的な起源を持つというのが正しい．しかし，だからといって，人権が現在，普遍的に有効なものとして認められているという事実は，いささかも変わりません．

超越と宗教

超越は人間存在の可能性であり，人間だけがアクセスできるものです．しかし，同時に，超越は自然から与えられたものではなく，人間の精神の発展の結果または功績であります．私たちが知る限り，枢軸時代の革命以前には，前述のような意味での超越はなかったようです．これはアニミズムのような，

いわゆる古代宗教に見られます．これらは局所的な宗教です．特定の集団，特定の部族にのみ適用されます．

アニミズムという言葉も，またラテン語に由来しています．ラテン語のアニマは魂や精神を意味します．アニミズムでは，自然は聖霊や幽霊の住む場所であります．だから，アニミズムの神々は，人間を取り巻く自然の一部であり，アニミズムにはトーテム崇拝があります．この場合，特定の動物や植物が神として崇拝されます．

いわゆる世界宗教には，このような俗と聖の連続性はもはや見られません．世界宗教は，もはや局所的に限定された宗教ではなく，普遍的に有効な宗教だからです．その理由は，もちろん今述べた超越の視点にあります．ある意味では，世界宗教は文化的にも超越的であります．そのため，例えば，仏教は発祥の地であるインドから中国へ，そこから朝鮮半島を経て日本へと移動することができました．そして，20 世紀には，仏教はヨーロッパや北米にまで伝わったのです．

仏教とキリスト教もまた，これまで疑いなく有効であると見なされてきた社会的な規範を疑う可能性を持っています．これは人身御供の慣習だけでなく，より一般的には，よき人生という問題に関わるものです．

おわりに

今日，私は，純粋に人間的な可能性としての超越についてお話ししました．私たちがどう生きるべきかを自問できるという事実そのものが，この可能性の証拠なのです．動物や，人間以外の生き物には，この可能性はありません．いわゆる人工知能 AI がそれを持つようになるかどうかは，別の問題です．

ご清聴ありがとうございました．

（社会学部教授）

2023. 10. 26（木）

ボスニア・ヘルツェゴビナから考える人間らしさと平和

荻　野　昌　弘

光を造り，闇を創造し
平和をもたらし，災いを創造する者．
わたしが主，これらのことをするものである．

（イザヤ書　45 章 7 節）

世界遺産制度と戦争

テーマは「人間らしさとは」ということで，私がこの夏に経験したことを中心にお話ししたいと思います．コロナ禍になってなかなか海外旅行ができなかったのですけれども，今年の夏に私は，フランスとそれからボスニア・ヘルツェゴビナに行きました．

ベネディクト先生のお話にも戦争という言葉がありましたけれども，私は文化遺産の制度，特に今回は世界遺産に関して調査しています．世界遺産の制度というのは，実は戦争と深い関係があります．というのは，戦争が起こると文化財というのが破壊されるわけです．過去にもたくさんそういう例があります．それで，実際に戦災が起こってしまう，つまり何らかの社会的な要因によって文化財が破壊されてしまった後，どうするのかという問題意識から，今の世界遺産の制度は生まれているわけです．

旧ユーゴスラビアへの旅，1979 年

ボスニア・ヘルツェゴビナも 1991 年から 95 年まで内戦があって，もともと中世からあるスターリ・モストという橋があったのですが，それが戦争で破壊されましたが，2005 年になって修復，世界遺産登録されました．その状況を見にボスニア・ヘルツェゴビナへ行ってきました．

実は，私はこの地域に行くのは初めてではなくて，学生だった 1970 年代後半，79 年に，フランスからイタリア，それからその当時はユーゴスラビアという国があったのですが，そのユーゴスラビアからアルバニアという所へ行って，そこからギリシャまで，車でキャンプをしながら，1 カ月以上かけて旅行をしたわけです．

その時のボスニア・ヘルツェゴビナ，旧ユーゴスラビアの雰囲気は，かなり長くユーゴスラビアを旅行しましたから記憶に残っているのですが，人々も穏やかですし，海もあれば山岳地帯もあって，また湖があって，風

景も非常にきれいでした．大変穏やかな雰囲気で，社会主義の国でしたけれども，自由で，ずっとキャンプをしていくのですが，地元のユーゴスラビアの人たちがそのキャンプ地に来てバカンスを楽しんでいて，その当時は日本の経済が上向きになっていって，ヨーロッパでもかなり日本経済がすごいということが言われていたのですが，あくせく働いている日本人よりよほどユーゴスラビアの人たちのほうが幸せだなという印象を持っていました．

旧ユーゴスラビア内戦終結と復興
－橋の修復を通じて

ですから，その後，10 年ちょっとして，ユーゴスラビアという国が崩壊して内戦が起こるとは思いもよらないことだったので，私は非常にびっくりしました．実際に，その内戦の時に，ボスニア・ヘルツェゴビナは 2 つの隣国から攻められていて，その 1 つはセルビア，もう 1 つはクロアチアです．私が訪れたスターリ・モストがあるモスタルという町に住んでいたボスニア・ヘルツェゴビナの人たちが虐殺されました．一方では，今の首都はサラエボというのですが，サラエボの近くでセルビアのほうからやってきた軍隊が虐殺するという，少なくとも 2 カ所で違う国の兵士たちによって，多くの住民が殺されていることがあって，それが記憶に新しいところであるわけです．

実際，行ってみると，世界遺産なので観光地になっていて，観光客がたくさん来ており，楽しそうに観光を楽しんでいました．その一方で，子どもたちが物乞いをするような光景もあって，しかも，まだ倒壊したビルなどがそのまま残っていたりして，1995 年に一応内戦が終わるのですが，それからかなり経っているのに，完全に町が再建されているという状況にはなっていないということです．

ですから，雰囲気としては明るくて楽しい観光地にはなっているのですが，果たしてこの平和というものがこれから続くのかどうかというと，あくまでも私の主観ですが，何か常に危うさを持っている平和であるという印象を持ったわけです．

これはあくまでも 1 つの意見にすぎないのですけれども，日本経済新聞にウクライナが変える安保という特集があります．旧ユーゴスラビアがいろいろな国に分かれていて，その 1 つにモンテネグロがあります．そのモンテネグロのベロビッチ国防次官が，またボスニア・ヘルツェゴビナで問題が起こる可能性があるような談話を日経新聞に語っていて，そのようなある種の漠然とした不安が常に残るような状況があると感じるのは，私だけではなくて，そのように感じている人が一定数はいるのだろうと思いました．

戦争と災いと平和
－人間らしさはどこに

こうした議論があると，軍備増強や軍事費用を 2 倍にしろなどの話も出てきますが，その方向に行くのは，個人的には非常に良くないことだと私は思っています．先ほど，読んでいただいた聖書の箇所で，神は平和をつくるけれども，災いも創造していると言っています．これを読むと，不思議というか，なぜそのようなものまでつくるのかと，平和だけつくっておけばいいではないかと思ってし

まうのですけれども，実際の現実においては，戦争のような大きな災いはもちろんのこと，われわれ個人にも日々何か災いが生じるリスクは常にあるわけで，そういう意味では，現実というのは平和であると同時に災いも起こるものではないかとも考えることができると思います．

神が平和と共に災いを創造してしまったせいか，災いは起こります．それで，これを放置しておけばいいのかというと，そうではなくて，人間らしさということでいえば，人間というのはしょうもない存在なので災いを起こしてしまう，戦争をしてしまいます．けれども，一方では，それを超えて平和を構築していこうという意思も持っているということが人間らしさではないかと思うわけです．

ですから，災いはこれからも起こるかもしれないけれども，それをできるだけなくすように努力する．実際に起こってしまった後には，それに対してできるだけ早いうちに平和な状態をつくっていくことが，それが同時に人間らしさではないかと思います．

そういう意味で，先ほどの世界遺産になった橋も，破壊されて，そのままにして放置しておくのではなく，修復して，今や平和のシンボルであると言っているのですけれども，果たしてそれで平和が維持されるのかという疑いは持つ人もいるかもしれませんが，それでもやはりその橋を修復することのほうが，しないよりははるかにいいのではないか．つまり，それが，私が考える人間らしさではないかと思います．

ということで，今日はこれでお話を終わりにしたいと思います．ありがとうございました．

（社会学部教授）

Ⅴ．身近な社会問題から

2023. 11. 8（水）

韓国のバンドが日本で行ったパフィーマンスから見えたこと

高 原 基 彰

たまにこのチャペルに呼んでいただくのですけれども，何となく私の個人的な思い出の話をすることにしています．

今，打樋先生がおっしゃられたように，敵と味方といいますか，それが敵対するようなことは世界にありまして，それの究極的なものとしてイスラエルとパレスチナが今問題になっているわけなのですけれども．それに少し近づけて言うと，スケールは落ちる話ですが，私が個人的に体験した中で，敵と味方でいがみ合うということが，見た目よりはいろいろ複雑な背景があるかもしれないと考える，きっかけになったことをお話しさせていただこうと思います．

フジロックのノーブレイン

最初に何が起きたかを言います．西暦2001 年のことだったのですが，今思うと，韓国ドラマが日本で初めて流行った「冬のソナタ」というのが 2000 年でした．いわゆる韓流ブームが最初に日本で起きていた最中です．その時に，フジロックフェスティバルってご存じですか？第一次韓流ブームの頃，フジロックの社長は日高さんという人なのですけれども，日高さんが決めて，韓国のバンドを年に一組ずつ呼ぶことにしていたのです．たぶんその 2 番目が 2001 年で，私が前から知っていた韓国のバンドがフジロックに，ある日の朝一番で，レッドマーキーというあまり大きくないステージに出ました．

ノーブレインというパンクバンドなんですが，出てきたら演奏前に，旗，旭日旗というのですけれども，分かりますかね．朝日新聞のマークになっているくらいで，日本でそういう意味はあまりないのですが，韓国では日本の植民地支配の象徴とされていて，今でも抵抗感を持つ人が非常に多いです．

ノーブレインは大きい旭日旗を持ってきて，そこに「歴史教科書歪曲（わいきょく）反対」と書いてあって．それをステージでびりびりと破いたのです．びりびりと破いて，「ファック・ザ・ジャパニーズ・インペリアリズム」とマイクで言う，英語が文法的に間違っているのですけれども（笑），そのようなパフォーマンスをしたのです．当時は韓国で，日本の歴史教科書に問題があるという話がジャーナリズムをにぎわせていました．

フジロックのファンたちの間では結構話題になって，当時は SNS がありませんがインターネットはあったので，フジロックの BBS，ネット掲示板がありました．たとえば「この日誰々のステージに一緒に行きませんか」というようなことを書き込むための掲

示板なんですが，そこに「何だこの韓国のくそバンドは」のような書き込みがわーっと集中して来て，BBS がダウンしてしまいました．

日本ではフジロックに興味ない人は知らなかったと思いますけれども，韓国ではもっと大きな話題になって，普通にテレビのニュースで取り上げられていました．日本側では，「日本に来て反日的なことしやがって」というように受け取られたわけですけれども，韓国だと，基本的には「よくやった」というニュースになったのです．私は同世代なんですが，当時私たちが若かった頃，韓国では「パンクバンドなんかやってる，普通に考えるとバカみたいな若者が，日本に行って，言うべきことを言った」というような，よくやったという感じでニュースになって，スポーツ新聞などでも取り上げられていました．

そのパフォーマンスをしたボーカルの人を，その何年か前から私は知っていました．最初に会ったのは，1998 年です．1998 年に，私がたまたま大学の卒業旅行で韓国に行った時に，ライブハウスに行ったんですね．私はパンクのライブによく行っていて，ソウルでもそういうライブハウスがあると聞いていたからです．

その頃，彼はバンドをやりながらそのライブハウスに住んでいて，トイレの掃除などをする係もやっていたのです．最初から「君日本人？」みたいな感じで．当時はソウルに外国人の観光客がまだあまりいない時代で，しかもそんなライブハウスまで来る外国人というのは珍しいから，仲良くなってですね．「日本のパンクバンドに興味あるけど，あまり知らないから，紹介してくれないか」と言うのです．

1998 年の当時，韓国側には，日本大衆文化禁止令というのがありました．それは同じく 1998 年，私たちが会った後に，金大中という大統領によって撤廃されるのですけれども，その撤廃される少し前の時でした．長い間，基本的に日本の音楽は韓国で売ってはいけないし，放送で流してもいけなかったのです．

私は当時パンクの音楽にすごく詳しくて，家にたくさん，日本のもアメリカ・イギリスのも，いろいろなバンドの CD を持っていました．それを当時，時代ですね，CD からカセットテープに入れて，カセットテープは 120 分が一番長いですから，120 分かける 15 本ぐらい，日本のやつをばんばん入れて，英語で長い解説文を付けて送ったのです．

そうしたら，周りのバンド仲間を含めて，とても喜んでくれて．その後，そのライブハウスでやっていたバンドの中から，有名なバンドになっていく，韓国人だったら大体名前を知っているぐらいのバンドもいくつか出てきます．ノーブレインはその一つです．そういうことがあって，今でも私がソウルに行くと，私はバンドもやっていないし音楽と関係ないのだけれども，彼らは仲間として遇してくれます．

その後，そのボーカルの彼は，どうでもいい話ですが日本人の彼女と付き合い出してですね．アシアナ航空という，最近なくなってしまった航空会社があるのですけれども，そこの CA さんをやっていた人と付き合い出して，日本語を勉強して，何年かで日本語ペラペラになって，今でも話せます．

そういうことがあった後で，その事件が起きたのです．私としては，日本が嫌いな訳が

ないことを知っていたので，まあ「なんでかな？」と思ったわけです．私は大学院生になっていまして，この件で韓国に調査に行こうと思って．でもお金が全然ないので，松下国際財団というところの助成金に応募したら，ありがたいことに通してもらいました．

韓流とコリアエクスポ

調査の話に入る前に，当時の韓流は，テレビドラマを中心にすごいものでしたから，フジロックみたいな「マス」「メジャー」でないイベントでの出来事など，それに比べれば小さなことでした．

たとえば，韓国の側も日本でブームがきていることが分かっていますので，日本で大規模イベントを仕掛けたりしてました．その代表例の 1 つがコリアエキスポというイベントで，それは日本にある韓国大使館と，日本の貿易・通商関係の部署とが連携して主催しているような，つまり半国家的な，そして大手の広告代理店がついて，すごくお金がかかっているイベントで，東名阪で行われました．2000 年，フジロックの件の一年前のことです．

私は当時東京にいたので，幕張メッセというすごく大きな会場に行きました．1998 年，韓国と日本の両政府は「日韓パートナーシップ宣言」というのを出した後で，日韓が関係改善の方向に向かっていた時代です．その中でコリアエクスポというイベントでは，いろいろな韓国の宣伝をしているわけです．たとえば，「韓国にはこのような食べ物があります」とキムチの物販店があったり，他にも「韓国にはこのような産業があります」と，「だからここに投資をしてください」と，日本からの投資を促すような掲示や展示などがあったりしました．

そのいろいろある中の 1 つとして，「大衆文化」というコーナーもありました．展示もあるし，結構大きなステージが作られてもいたんですね．イベントが行われて，当時は割と人気だったアイドルグループとか，ソロシンガーとかが何組か出て．

トリは，当時人気だった韓国のヒップホップのアーティストで，みなさんは多分知らないと思いますが，ドランクンタイガーという，今では韓国ヒップホップの伝説とされているデュオがいました．韓国語で「在米僑胞」というんですが，アメリカに移住した韓国人の子供でアメリカ育ちの，日本で言う「帰国子女」でしょうか，それが当時の，いわゆるギャングスタ風のヒップホップを韓国語と英語を混ぜてやっていて．当時韓国ですごく売れていたんです．私も彼ら目当てで行きました．

そもそも，少し悪い感じのヒップホップの人が，アイドルとかの後にステージに出てくること自体，ちょっとおかしいわけですよね．ところが客席を見ると，もはやそういう問題ですらなくて．コリアエクスポに来ている人は，食べ物のことや投資の話を聞きにきている人たちだから，お客さんはスーツ姿の人とか，キムチの買い物袋を抱えている人とか，何だったらおじいさんおばあさんに近いような人とか，そんな人たちしかいないわけです．

そういう人たちがパイプ椅子に座っている前で，ドランクンタイガーが「ヨー，ヨー，ヨー」とか言って，「おれのライムがすべてを変える」とか「本物のヒップホップが分かる奴は声を上げろ」とか言っていたんです

ね．もちろん全然盛り上がりません．まあ，非常に奇妙なイベントだったというか，「なんだ，せっかくドランクンタイガーが日本に来たのにもったいないな」と私は思いました．

パフォーマンスの意味

2000 年にコリアエクスポが大々的に行われていたような時代背景の中で，ノーブレインが 2001 年のフジロックに来て，あのようなパフォーマンスをした，ということなんですね．では，あの旗を破るパフォーマンスとは，何だったと思いますか．

私がいろいろインタビューなどの調査をして，私なりに出た結論は，こうです．フジロックにバンドが出るというのは，「バンドとして認められた」ということでしょう．フジロックは当時韓国でも大変有名で，今では韓国にすっかり追い越されてしまいましたけれども，アジアにあの規模のフェスティバルは当時日本のフジロックしかなかったので，そこに出るのは当然ものすごく名誉なことだったわけです．

他方，コリアエクスポのようなイベントもあって，あのような意味のよく分からないステージ，だけどお金は国を通じていっぱいもらえる，そういうイベントが日本にできてきていたことも，韓国の音楽業界に伝わっていたわけです．

フジロックに出ることと，コリアエクスポに出ることは，意味合いが全然違いますね．私が思うに，旗を破るパフォーマンスは，たとえば歴史教科書に対して本気で何か言いたかったという部分は，それほどないのです．彼らが何を一番言いたかったかというと，「このフジロックに出ている俺たちは，国のお金をもらって韓流のブームで日本に来ているような，そういうやつらとは違うのだ」と．もしコリアエクスポで旗を破いたら，大問題というか，巨額の損害賠償にもなりかねないですよね．フジロックはロックのイベントで，国のお金も大使館もまったく関係ないです．だから，あえて大使館からお金が出ているようなところでは絶対できないことを，フジロックでやった．「日韓交流とか関係ない，興味ない，おれたちはただバンドとしてここに立っているんだ」とアピールしたかったということだと思います．

片仮名で「ノーブレイン」と検索すれば，その時の映像が YouTube で出てきます．今でもずっと日本語で悪口のリプライが付いています．韓国で覚えている人はそんなにいないかもしれないですけれども，時おり韓国で「懐かしいニュース」みたいな感じで取り上げられるときは，「歴史教科書について言うべきことを言った」という風に取り上げられます．

日本側の見方も，韓国側の見方も，私に言わせればまったく間違いなんですね．とはいえ，現場の本人たちは，ただインパクトのあるパフォーマンスをしたかっただけで，特に私の言っているような意識があった訳ではなかったそうです．後日，私の考えを伝えたら，「なるほどそうかもしれないな」と言っていました．本人たちも意識していなかったんだから，本人の思いと違うから間違いだという意味ではないんです．

その時代時代の背景・文脈がある中で，人々は，とても多様な行動や意識を持っています．「こっちの側はこうあるはずで，あっちの側はこうあるはずだ」というような枠組

みにすべて当てはめて考えようとすると，ものすごく多くの可能性を見逃してしまう．社会の現状分析として間違ってしまう．現状を改善する可能性も見逃してしまうでしょうし，さらには，ありえるリスク・危険性も見逃してしまう．そういう意味で間違いなんです．

これは分析というだけではなくて，何の仕事をするにしたって，ありえる間違いです．敵・味方の構図を前提として，「当然こうだ」と片付けるのではなくて，実は「普通の人があまり思いつかない，見えていないことがあるのではないか」と考える，これは社会で何をするにも，そして社会学にとっても非常に重要なことでしょう．そこにつながればと思いまして，このお話をしました．ご清聴ありがとうございました．

（社会学部教授）

2023. 11. 14（火）

「近く」と「遠く」の想像力

阿　部　　潔

今月のチャペル月間テーマは「身近な社会問題から」です．ただ，正直申してわたしには，なにが身近な社会問題なのか，自信をもって答えられません．なぜなら，たとえわたしにとってそれが身近で重要なテーマであったとしても，もしかすると若いみなさんにとって，それはとても縁遠いものかもしれない．また逆に，学生たちが日々身近に受けとめている話題は，教員にとって自分とはとてもかけ離れた事柄に感じられているかもしれない．ついそのように考えてしまうので，今日は苦し紛れにひとつの寓話をお話ししたいと思います．そのことで，たとえ少しでも「身近な社会問題から」とのテーマに触れることができれば，わたしとしては幸せです．

子グマの戸惑い

その日，子グマは，父グマと一緒に山を降りて行きました．でも，少し不安でした．なぜなら，これまで一度もそこに行ったことがなかったから．森の外にあるその場所は，以前に父グマから「あそこはニンゲンたちが占拠している危ない場所だから，不用意に近づいてはいけないよ」と言われていたのでした．

「おとうさん，この先はニンゲンたちが住んでいるところだから，行ってはいけないんじゃないの？あぶないんじゃないの？」
すると父グマは，
「うん，そうだよ．でも，行かなきゃならないんだ」
と答えます．
「どうして？」
と子グマがさらに尋ねると，父グマは少し悲しそうな面持ちで，
「ニンゲンたちが山に入り，家を建て始めてから，大事などんぐりが取れなくなってしまったんだよ．だから，お前たちやお母さんのために，とうさんは餌を取りに行かなきゃならないんだ」
と言うのです．

それを聞いて子グマは，いつもお腹をすかしているお母さんや弟，妹のことを思い出し，たとえ怖くても自分もこの先に行かねばならないのだと悟りました

父グマと子グマがゆっくり山を降っていくと，やがて大きな畑が開けた台地に出ます．そこには美味しそうな野菜や果物が，たわわに実っているのでした．自分たちが暮らす，荒れ果てた山林の様子を思い出した子グマは，「どうしてこんなに近くなのに，ここは

こんなに豊かなのだろう」と思わずにはいられません．

「さあ，できるだけ早く食べられるものを持ち帰ろう」
そう言うと父グマは素早い動きで畑に向かって走り出しました．
「うん」
と返事をして，子グマが後を追いかけようとしたそのとき．

パン！パン！
聞いたことのない乾いた音に驚き，思わず後退りした子グマの目に，ドスンと鈍い音とともに崩れ落ちる父グマの姿が，まるで幻のように映りました．

「あっ！」
パン！パン！パン！
乾いた音は続きます．子グマは我を忘れてもと来た山へと駆け上がりました．
　やっとの思いで森の木陰まで辿り着き，ようやく後ろを振り返ることができた子グマは，ニンゲンたちに取り囲まれて，ぴくりとも動かぬ父グマの姿を見たのでした．

少年の疑問

「父さん，どうして親熊を撃ったの．逃げた子熊がかわいそうだよ・・・・」
「でも，熊が山里に降りてきたら困るだろ．おまえたちのために，父さんたちは熊の駆除をしてるんだよ」
「でも，なにも殺さなくてもいいじゃない・・・・」
「いやだめだ．捕まえてから山に帰しても，また熊たちは戻ってくるんだ．だから，こうするしか仕方がないだろ」
「でも，どうしてここは危ないのに，熊たちは戻ってくるの？」
「それは・・・・・・　父さんにはわからない」

　少年は目の前に横たわった大きなクマの姿を眺めながら，森の奥へと駆け逃げていった子熊の後ろ姿に思いを馳せていました．
　たしかに，街中で熊に出くわすのは怖いし，すでに怪我人も出ているのだから駆除する必要があることくらい，彼にだって分かります．
　それでもなお，どうして殺さなければならないのか？　少年には，その理由がどうしても腑に落ちないのでした．
　さっき目にした子熊のことを考えると，「ほかにやりかたはなかったんだろうか・・・」との思いが，まるで晴れない霞のように少年のなかで広がるのでした．

決意と誓い

　森に逃げ帰った子グマは，どうしても家族のもとに帰れません．己の身に起きた悲劇を，母グマやきょうだいグマにどのように話せば良いのか，皆目見当もつかないから．自分たち家族のために危険な山里へ餌を求めて降りていった父グマは，ニンゲンたちの手で殺されてしまった．そのこと自体が受け入れ難いのに，その事実を聞いて悲しみに暮れるだろう家族に，父グマの死を伝えることがどうしてもできないのでした．

「そうだ，ぼくは一人でここに残ろう．そし

て，いつの日か，またあの山里へ降りていって，とうさんの思いをこの手で果たそう・・・」
そう子グマは固く誓ったのでした．

でも，どうすることが，なにをすれば，とうさんの遺志を継ぐことになるのか，正直なところよく分かりません．ただ，言葉にならない怒りと，身を震わせる悔しさだけが，子グマを掴んで離さないのでした．

今日一日の狩りだけで３頭を駆除したハンターたちは，夜の戸張が降りる頃には，畑の端に大きな看板を建てる作業に取り組んでいました．そのなかにひとりだけ子供がいて，屈強な大人たちが木の板を立てかけるのを一生懸命手伝っているのでした．この看板設置は，日々熊の襲来に怯える村人たちの不安を少しでも和らげようと，村長じきじきの発案で決められたのでした．

そうしたニンゲンたちの振る舞いを，森の奥で子グマがまんじりともせず見続けています．さっきまで父グマの亡骸が放置されていた場所に建てられた白い看板に記された文字．鮮明な記号が，いまだ胸のざわめきを抑えきれない子グマの目に飛び込んできます．

「持続可能な動物保守のための人的支援＝Humanitarian Aid for Maintenance of Animals to be Sustainable」（H・A・M・A・S）

その四文字の符牒に触れたとき，子グマの頭の中でなにかが啓示のごとく閃き，全身を貫きました．そして彼は，父グマたちの遺志を継ぐことがなにであるのかが，はっきりとわかったように感じたのでした．

伝承と希望

ザワザワと胸が騒ぐような経験をした長い一日を終えて，少年は床につきました．明日は楽しみにしている日曜学校の日．そこで習う「歴史の書」の時間が，少年は大好きです．この土地に代々伝わるとされる物語には，以下のように記されています．

「はるか昔より，この地は決して肥沃ではなかったが，虫も，動物も，人もすべてが，互いを慈しみ合いながら，平和に暮らしていた．なぜなら，それこそが救いへの唯一の道だと知っていたからである」

そんな平和をもう一度取り戻すことが，はたしてできるのか．少年にはわかりません．ですが，古来の人びとから伝えられたとされる「歴史の書」に刻まれたこの言葉にこそ，たとえ微かであれ，希望の光がある．少年は，いつの日からかそう信じるようになっていました．

今も脳裏に焼きついている，森へと逃げていった子熊の姿．いつの日か再会をはたす日が訪れるまで，この言葉を忘れてはならない．だれに言われたのでもなく，少年は堅くそう信じていたのでした．

寓話は以上です．もしかすると，「近く」の問題は，はるか「遠く」とつながっていて，「いま」の事柄は，はるか「昔」からの宿命なのかもしれません．そのことを告げる言葉に耳を傾けることが，やがて来たる希望

の糸口になる．そう信じたいと，わたしは思います．

（社会学部教授）

2023. 11. 21（火）

「助けて」といえる社会に

長　松　奈美江

皆さん，おはようございます．今日は，先日北海道で行われた集会で私が学んできたことを，皆さんと共有しようと思います．

「子ども期の逆境体験」

ACE（Adverse Childhood Experiences）尺度といって，「子ども期の逆境体験」と呼ばれる尺度があります．これは，「子ども期」である 18 歳までに経験したことを調査するための項目です．今から 11 項目を読み上げますので，皆さんの心の中で「当てはまる」と思う数を数えてみてください．

親が亡くなった／親が離婚もしくは別居した／親が精神疾患を患っていた／親がアルコールやギャンブルなどの依存症だった／父親が母親に暴力を振るっていた／親にひどく殴られてけがをした／食事や着替えなど必要な世話をしてもらえなかった／親から傷つくことを言われたり侮辱されたりした／親から愛されていると感じなかった／経済的に苦しかった／大人から性的に触られた――以上の 11 項目になります．皆さんに心の中で数えていただいたのですけれども，もちろん公表する必要はありません．聞いてみて分かったと思いますが，すべてつらい経験ですよね．当てはまる項目の数が多いほど，つらい体験をしたことを意味します．ですから，「子ども期の逆境体験」という名前が付いているわけですね．

こういう体験をしたらどうなるでしょうか．いろいろな調査研究があります．これに当てはまる項目が多いほど，大人になってからもつらい経験をすることが多いという調査結果が出ています．例えば４つや５つ当てはまると，自分も病気をしやすくなります．病気には身体的なものもあるし，精神的な病気にも罹りやすくなります．あるいは，あてはまる項目が多いほど学歴が低くなってしまう．そして大人になっても貧困に陥ってしまうリスクが高くなると言われています．日本でもそうだし，他の国でも，子どもの時に大変な体験をしたら，その後の人生もすごくつらくなると言われています．

このような研究があるというのはわかりますが，普通に考えてみて，すごくつらいことですよね．子どもは親を選べません．私も子どもが２人いて，彼女らは私のもとに来てくれたのだけれども，子ども自身は「こういう親に生まれたい」というのは選べません．最近は「親ガチャ」と呼ばれているように，「一生親の影響から逃れられない」というようなことが言われています．

「生活困窮者自立支援・全国研究交流大会」に参加して

そういう話を聞くと，「人生はつらいな」，「この社会はつらいな」と思うのですけれども，つらいことだけではないという話をしたいと思います．私は今月の初めぐらいに，北海道の札幌に出張で行ってきました．「生活困窮者自立支援・全国研究交流大会」に参加するためです．今の社会には，ご飯を食べるお金がない，仕事がなくて困っている，病気であるなど，つらい状況にある人，つらい経験をしている人がすごくたくさんいます．「自立支援」という言葉がついているように，この集会は，そのようなつらい状況にある人たちを支援する人たちの集まりです．

私は研究者で，生活困窮者自立支援制度について研究をしているからこの大会に行ったのですけれども，その集まりに参加する研究者はすごく少なくて，参加者の多くは実務家です．実際に，支援活動に従事する人がたくさん集まっていました．対面とオンラインの併用だったのですが，1,500 人くらいの人が全国から集まって，交流しました．今日は，そこで聞いたお話を，皆さんと共有したいと思います．

北海道の浦河町に「べてるの家」という社会福祉法人があります．「べてるの家」は，精神障害などを抱えた当事者がその地域で活動をするための拠点となっています．いろいろな支援活動をしているのですけれども，「当事者研究」の実践ですごく有名です．「当事者」は社会学でもよく出てくる言葉ですけれども，すごくつらい経験をした人たち，精神障害だったら，うつ病や統合失調症など，精神的にもすごくつらい人たちが自分たちの経験について語り合うような場所を提供している団体です．

例えば，不登校が最近増えていますよね．学校に行きたくない．では，なぜ行きたくないのか．学校に行こうと思ったら，なんでおなかが痛くなるのだろうか．学校に行かないとどうなるのかな．こういうことを，当事者が話し，語り合います．いろいろな経験を語り合うことで，本人が自分のことを研究する．それを「当事者研究」と言っています．

依存症の家族

この集まりで，「べてるの家」の代表をされている向谷地さんという人のお話を聞いてきました．その向谷地さんがずっと支援している家族がいます．その家族は，おじいちゃんもお父さんもおじさんも，みんな依存症です．アルコールやギャンブルに依存しています．家族だけではなくて親族がみんな依存症という一家でした．この家庭で育った男の子がいます．向谷地さんは，この子のことは 3 歳の頃からずっと知っていて，その家族に支援をしてきました．

そういう家庭に育った子は，先ほど紹介した「子ども期の逆境体験」がたくさん当てはまるような子です．その男の子は，親や親族の依存症を見ながら育ってきた．やはり依存症になるとつらいから，自分はそうなりたくないと頑張ってきました．その男の子は大きくなって，統合失調症という病気を患う女性と結婚しました．そして，子どもが 2 人生まれました．統合失調症という脳の病気は，幻聴や幻覚に悩まされる病気です．2 人ともつらい状態にあるけれども，家族で頑張って生きていました．

でも，その男の子は，稼いできたお金を全部使ってしまいます．子どもが小さいのにご飯も買えないし，おむつも買えないから，その家族は困ってしまいました．そして，依存症の家庭で育った男の子は，ついに自分もアルコール依存症になってしまったのです．依存症はつらいから，依存症にならないように頑張って生きてきたのだけれども，結局自分も依存症になってしまいました．

その男の子は，泣きながら向谷地さんに電話をかけてきたといいます．「依存症にならないように頑張ってきたのに，おじいちゃん，お父さん，おじさんと同じように，自分も依存症になってしまった」と，泣きながら電話をかけてきました．これは，一言で言うと，「恵まれない家庭に生まれたから，恵まれない人生を歩んでしまった」ということです．当事者にとっても，社会にとってもつらいことです．でも，本当に「つらい」話だけで終わってしまうのでしょうか．

「助けて」と言えたことが「大きな進歩」

向谷地さんや仲間たちは，その依存症の家族をずっと支援してきました．向谷地さんが言うには，「助けて」と言えたことがすごい進歩なのだというのです．お父さんも，おじいちゃんも，おじさんも「助けて」と言えませんでした．あるときには，向谷地さんの前で家族・親族のけんかが始まり，向谷地さんも殴られた経験があるそうです．その時は，みんなはけんかはするけれど，「助けて」とは言えなかったのですね．でも，その男の子は「助けて」と言えた．それが「大きな一歩」なのだと，向谷地さんはお話をしてくれました．

はた目から見ると，すごくつらい経験です．統合失調症のお母さん，アルコール依存症のお父さん，小さな子どもが２人います．その子どもたちは，お父さんお母さんで育てられないから児童相談所に引き取ってもらったと言っていました．お母さんは，「いい意味で」引き取ってもらったんだ，とおっしゃっていました．私たちは育てられないから，いい意味で児童相談所に引き取ってもらった．他の家族や他の仲間で育ててもらうという決断をしたわけです．

私たちの社会には非常にたくさん問題があって，一言で言うと「生きづらい」わけです．依存症になりたくないと思っていても，やはり人生には，学校に行けなかったり，仕事がうまくいかなかったり，つらいことが多く，何かに依存しなければいけない状況に陥ってしまうかもしれない．でも，つらいからこそ，「助けて」と言えることは尊いなと思いました．だから，依存症になってしまっても，それは「失敗」ではなくて，「大きな進歩」であり「一歩」なのだと教えてもらいました．

私たちの社会はいびつになっていて，人と人とが殺し合う戦争が起きており，戦争でなくても，親が子どもを殺してしまうとか，自分で自分を殺してしまうようなことが起きています．この集会に参加してみて思ったのは，とてもシンプルで，とても大切なことは，つらくても生き続けていくためには，助け合わなければいけないということです．誰かに「助けて」と言えることがとても大事なのだなと学びました．

（社会学部教授）

Ⅵ. 最終チャペル講話

2023. 12. 6（水）

関学の命名をふり返る
ー定年退職を迎えて

宮　原　浩二郎

はじめに

今日は「最終チャペル」ということですが，関学に来て 36 年（！）になります．今日も正門からキャンパスに入るときに，昔，最初に来た時のことを思い出したのですが，夢のようでもあり，つい昨日のことのようでもあり，ちょっと不思議な気分になりました．

僕は関東の出身で，20 代半ばまでは東京で，その後 30 代初めまでアメリカに留学していました．ですから関学の存在は知っていましたが，「カンサイ」学院と読んでいたはずで，あまり深くは知らなかったのです．最初にキャンパスに来たのは採用面接の日で，「西宮北口で今津線に乗り換える」と聞いていたので，今津のほうに行ってしまいました．緊張していたのかもしれませんが，今津の駅で降りて，焦って引き返しました．その時に初めて見たキャンパスの印象は鮮やかで，それは今もほとんど変わらないですよ．正面に時計台，甲山が後ろに控え，左右にスペイン風の白い校舎が並んでいるという美しさに，すごく感動したのを覚えています．

「カンセイ」学院の響き

当時は「関学（カンガク）」という言い方が新鮮で，すぐに覚えました．すぐ慣れて，カンガク，カンガクと言っていたのだけれども，「カンセイ」学院という言い方，この「カンセイ」という読み方が身につくのにしばらく時間がかかりました．もちろん，だんだん馴染んできて，今ではもう，「カンサイ」学院と言う人がいると違和感を感じ，イラッとして直したくなったり，学会などに行って自己紹介する時も，「カンセイ学院」の「セイ」を少し強めに言うようになりました．長い間に，この言葉の響きがすっかり身に付いてきたように思います．

皆さんも知っていると思いますが，関学の創立は 1889 年の神戸で，その時にどう名前を付けようかという，命名の事情があります．1 つは関東に対する関西ということなのですが，この関西というのはウェスト・ジャパン，西日本という意味合いがあったようです．僕も当時の資料を読んだことがありますが，ウェスト・ジャパン・カレッジと書いてあって，そういう意味合いが 1 つありました．もう 1 つは，当時でも関西は「カンサイ」と読むのが主流ではあったのだけれども，それ以外にもちょっと気取った流行りの

読み方として「カンセイ」もありだったようです．とくに，東京を「トウケイ」と読むのがお洒落でかっこ良かったようで，それを意識して関西をあえて「カンセイ」と読むことにしたと言われています．「カンセイ」には先進的で革新的な響きがあり，お洒落でかっこいいという意味合いがあるということで選ばれたということです．

皆さんもよく知っているように，こうした名づけの一工夫の背景には，当時の神戸の圧倒的な先進性，国際性があります．神戸は幕末の開港から急激に大発展していき，世界に開かれた港のある大都市で，ここからあらゆる新しいものが日本に入ってくるわけです．いろいろな文化やスポーツもそうだし，あらゆるモノや情報が世界中から入ってきます．とくに欧米の文化や生活が入ってきて，もちろんキリスト教もどんどん入ってきます．そういう時代の神戸で関学が創立されたわけです．

僕は関学に来て以来，西宮，神戸，芦屋とずっと阪神間に住んでいて，これからも住んでいくつもりなので，結果的には移住したことになります．神戸や阪神間，関西のいろいろな所を歩き回ったり，街歩きしたり，関学の先生やもっと上の世代の先輩たちからいろいろな話を聞いたり，本を読んだり，地域の歴史を自然に身につけてきたように思います．そうすると，関学の名づけの歴史的背景というか，関学創立当時の神戸の先進性や躍動感があらためて身近に感じられてきます．

神戸・阪神間の先進性と阪神淡路大震災

明治・大正だけでなく，しばらくして昭和の時代になっても，皆さん阪神間モダニズムという言葉を聞いたことがあるかもしれないけれども，神戸だけではなくて，大阪と神戸の間，まさにこの西宮や芦屋，東灘区や灘区もそうだし，神戸と大阪の間に独特の文化が育つわけです．全国的にみても突出して欧米的で先進的なライフスタイルやモダンな建築，それに和風も入った和洋折衷の建築や，革新的な文化運動や芸術活動の中心地になっていきます．それからキリスト教の博愛精神に基づいた社会運動，賀川豊彦さんが有名ですが，生協運動なども盛んになり，一大先進文化地域になったわけです．関学の学生や卒業生，教職員もそうした先進文化の担い手でした．さきほど「カンセイ」学院という読み方を強調しましたが，この言葉の響きには，単にお洒落だというだけでなく，そうした歴史的な意味合いも僕の中で入ってい入っているのかなとあらためて気づかされます．

僕は 1980 年代の後半から関学にいるのですが，すぐに 90 年代に入って，そして 30 年経った今はどうかというと，そういう明治の時代や昭和の初期の時代のような先進性や革新性は，神戸にしろ阪神間にしろ，もうだいぶ弱まってきたわけです．それは日本全体が 90 年代からずっと，成長社会がピークオフして，いろいろな事情があるのですが，近代化が飽和したようになっている時代です．特に神戸の場合は阪神淡路大震災がありました．震災の被害は甚大で，これは語り出したら切りがないのですが，その後一応の復興はしたとはいえ，長期的に見れば神戸や阪神間地域の活力をボディブローのように弱めてきたといえます．そういう意味では，全国的な停滞や高齢化だけでなく，神戸の場合には，かつての先進性や革新性がだいぶ弱まって，ある種の伝統として維持されていると

いう感じだと思います．

もちろん，震災後の神戸には別の意味の先進性や革新性も生まれています．たとえば，皆さんも知っているように，神戸や阪神間ではボランティア文化が非常に盛んになって，海外ボランティアの NPO などもたくさん出てきています．NPO は今や全国的に定着していますが，もともと NPO 法という法律ができたのも，その背景に神戸のボランティア文化があるのです．震災後の神戸・阪神間にはそういう別の意味の先進性もあり，関学もそうした新たな先進的な都市文化の担い手になってきたのも事実です．現在は，これからの時代のポスト成長社会にふさわしい先進性や革新性をあらためて考え直す時代に入っているという気もします．「カンセイ」学院の響きを大切にしながら，その先進性の意味合いをどう考え直していくかということが大切ではないかと思っています．

ポスト成長社会と感性的豊かさ

僕は社会学部で文化社会学や現代社会学特論などの講義を担当してきましたが，そのなかでここ 15 年ぐらいは「社会美学」，もう少し正確に言うと，「社会空間への感性的なアプローチ」ということを導入してきました．社会空間を感性であじわうことから始める社会学ということで，さまざまな角度から考え，論文を書き，授業で紹介し，本にまとめることを試みてきました．もうすぐ二冊目の『〈感性的なもの〉への社会学－社会空間の豊かさに向けて』という本が出ますので，皆さんもよければ手にとってみてください．

この「感性であじわう」というのは，とくに「カンセイ」」学院とかけているわけではないですが・・，身のまわりの社会空間を感性であじわうことから始めるような社会学ができないかということを考えてきました．僕自身，ふり返ってみると，社会の感性的な豊かさというか，感性で感じられる豊かさ，肌で感じられる豊かさのようなものにずっと問題意識を持ってきました．もちろん，物質的な豊かさや快適さや便利さ，それからシステムの合理性や効率性，社会的ルールの洗練や高度化も大事ですが，それだけでなく，それ以上に大事なのは，それこそ五感や想像力の働きを含めて，感性で感じられる豊かさこそが大事なのではないかと考えてきました．

先ほど，「ポスト成長社会」と言いましたけれども，現在の日本そして先進国は客観的にはもうなかなか経済成長できない状態に入っているのですが，それでも何とか無理やりでも成長させようとしているわけです．つねにアクセルを吹かせていないと止まってしまう資本主義の宿命みたいなものですが，とにかく無理やり成長させようとしていろいろなひずみを生んでいます．環境問題や地球温暖化もそうだし，格差の拡大や心理的なストレスの蔓延もそうでしょう．アメリカでは一部の富裕層がますます富を蓄える一方で，競争から脱落した人々の間には薬物依存がかつてなく蔓延しています．そういう無理なひずみを生まないような豊かさというものを目指したいものです．

関学の感性的豊かさ

今日あらためて関学の正門をくぐって，久しぶりにゆっくり中芝の周りをぶらぶら歩いてみました．30 年前から，関学の中芝やキャンパスのもっている独特の魅力をあじわっ

てきましたが，それは単に建物の見た目がいいとか構図が美しいという，フォトジェニックなものだけではないですね．皆さんも見ているかもしれないけれども，中芝でよく幼稚園や小学生の子どもたちが遊んでいたりするでしょう．大学のキャンパスには珍しいですよね．あるいは，近所の住民の人が散歩していたり，最近はあまり見ないけれども，椅子に腰かけて絵を描いていたりするわけです．

そういう自由にみんなで使える開放的な空間と雰囲気ですね．みんなに開かれている共有空間を社会学でコモンズと言いますが，このキャンパスはそういうコモンズ的な性格を持っていて，どこか遊びやゆとりがあって，現代日本ではとても貴重な，感性的に豊かな空間なのではないかと思います．最近はセキュリティーが強化されて，特にコロナ対策の影響もあってか，ガードマンさんの姿がちらほら目立つようになったのですが，それでもまだまだある種のコモンズ的な開かれた共有空間の魅力は十分に保たれていると思います．

もちろん甲山を背景にした時計台，中芝を囲むスパニッシュ・ミッションスタイルの校舎は一目で美しいのだけれども，それだけではなくて，キャンパス全体にある社会空間の雰囲気がすごく感性的に豊かなものを持っていて，僕自身はそれが本当にありがたく，ずっと感謝しながら過ごしてきました．それはすでに伝統なのですが，先ほど言ったポスト成長社会ということを考えると，意外とこれが現代の関学の新しいというか，意外に先進的な一面かもしれないですね．

定年退職を前にして，そのようなことも考えながら，今日，歩いてきたところです．皆さんも，ぜひ一度，関学の正式名称，「関西（カンセイ）学院）」を意識しながら，その独特の響きと一緒にキャンパスをあらためてあじわってみてください．

（社会学部教授）

2023. 12. 13（水）

有意義な大学生活の秘訣 ー昔と今の学生調査の比較から

大 谷 信 介

はじめに

私が教員として関学に赴任してきたのは，1997 年．当時から様々な社会調査を実施してきました．その中の 1 つが学生生活実態調査です．私は，この調査を継続して実施しており，今年も同様の調査を行いました．その調査結果とこれまでの自分の授業の体験などを交えて，昔の学生と今の学生がどう変わってきたのかについて，今日は話をしたいと思います．

97 年というと 27 年前．仮に皆さんの親御さんが 47 歳位なら，ちょうどその頃 20 歳，若者として生活していたはずです．それを想像しながらこの話を聞いてもらうと，分りやすいと思います．

27 年前のライフスタイル

まず，時代背景について，97 年の調査結果から話したいと思います．当時の調査の中には，「携帯電話を持っていますか」という設問がありました．97 年当時の関学生の携帯電話所有率は，44.1%．その翌年，98 年には，78.1% へと数字が急上昇しています．つまり，90 年代末期は，携帯電話が加速度的に普及していく時期であったということが，この調査からわかります．それが 27 年前くらいの状況だったと思うと，時代背景を想像しやすいのではないでしょうか．

では，携帯電話が無い時代は，学生のライフスタイルはどのようなものだったのでしょうか．携帯電話がないということは，連絡には家の固定電話を利用するしかない．家族がその様子を見ている．あるいは，待ち合わせをするにしても，携帯電話はありませんから，時間に間に合わなければ非常に大変なことになってしまう．そんな時代でした．ですから，みんな時間を守るような生活をしていたと思います．

その後，様々な ICT ツール，インターネット，SNS などが普及して，私たちのライフスタイルも非常に変わってきたと考えてもらうといいでしょう．

大学講義の変化と出席率

一方，授業の様子も大きく変っています．私が授業で PowerPoint を使い始めたのは，2005 年ごろ．それ以前は，講義ノートと黒板を使って授業をしていたことが，資料を調べていてわかりました．ですから，皆さんの親御さんが学生の時代には，そうしたアナログな形で授業がされていたと想像して

みてください.

次に，様々な調査結果の中で，最も興味深い点を紹介します．それは，授業への参加についての設問です.

「あなたは今年の春学期どの程度授業に参加しましたか」という問に対して，「よく出席した（75% 以上)」と答えた学生が，今年の学生たちでは 80.7%．一方，97 年の頃の学生は，35.7%.「やや出席した（50-75%)」でも，昔の学生は 37.0%（今は 16.1%）です．昔の方が，出席率がともて低かったことが，この数字から分かると思います.

では，この結果について，どのように解釈したら良いのでしょうか.

これについて，良い面を捉えると，昔に比べて今の学生は，皆さん真面目になったし，成績も良くなったと言えると思います．しかし，いわゆる「大学生」らしかったのは，私は昔の学生達だったと思います．昔は，学生と教員が信頼し合っていたようなところがあって，「大切なのは出席率ではない．ちゃんと結果さえ残せば良いのだ」とお互い思っていたような部分があったと思います．ですから，27 年前ごろは，授業で出席も取らない．そういう考えをベースに授業や講義が進められていました.

私語とオンデマンド授業

その後，様子がだんだん変わっていきました．つまり，昔は，授業を聞きたい人だけが出席し，話を聞いていた．しかし，その後，出席が重視されるようになると，講義に興味が無くてもとりあえず出席する学生が増えてくる．そうなると，私語が増えてくる．「関学の講義は，あまりにも私語が多く，うるさくてしょうがない」というのは，一時期，学内で大きな問題となりました．私など，「私語をするぐらいなら，授業にでなければいいのに」と思ったほどです.

言い換えれば，大学のありようが，だんだん高校化していったと表現できるかもしれません．また，当の学生自身が「出席を取ってください」という声をだんだん強くあげるようになってきたという状況の中に，私は時代の流れを感じています.

ところで現在は，授業中の私語は収まっています．これは，コロナ禍のおかげではないか，と私は思っています．コロナの前までは私語が沢山ありました．しかし，コロナ禍の後，私語がなくなったというのは，大きな変化でした.

コロナ禍のもう一つの効用は，オンデマンド授業です．コロナ禍でオンデマンド授業は一般化しました．オンデマンド授業だと，学生は，真剣に授業を聞く．居眠りもしていないし，私語もしない．その結果，同じようなテストをすると，オンデマンド授業で受講した学生のほうが，成績が良いのです．意外に集中して講義を聞いてくれるというのは，オンデマンド授業の良い面だったのだと気づかされました.

「友人に対する考え方」の今昔比較

もう一点，最後にお話します．関学生の友人関係についてです.

今と昔の調査結果での顕著な違いが，友人に対する考え方です．友人関係についての設問で特徴的な結果が得られたのは，次の 3 つです.

1つは，「新しい友人をつくるよりは今の友人とさらに仲良くしていきたい」「今の友人も含めてさらに友人の輪を広げたい」いずれに該当するかを選ぶ設問です．「今の友人と仲良くしていきたい」という数字が，現在の学生では53.6%，「輪を広げたい」が46.4%です．一方，昔の学生は，「今の友達」が34.1%，それに対して「輪を広げたい」が67.9%でした．この結果の違いは，大きな差です．すなわち，昔の学生の多くが「輪を広げたい」と思っていたのに対して，「今の友人」とやっていきたいと思う学生が，今はとても多いということです．

2つめは，「あなたの学内においての行動は次のどちらに該当しますか」という設問です．「いつも同じ人と行動することが多い」「場合に応じて異なった人と行動することが多い」という同じワーディングで昔と今も聞いています．今の学生たちは，「同じ人と行動」することが多いが72.3%，「異なる人」が27.7%です．それに対して，昔の学生は，「同じ人」が58.2%に対して，「異なる人」が41.8%でした．これも有意な差が出ていると言えます．

それから，3つめ．「あなたが今後，新たに友人を求めるとした場合，次のどちらの人を求めますか」という設問です．「どちらかというと自分に似たタイプの人」「どちらかといえば自分と異なるタイプの人」という質問に対して，今の学生たちは，「似ている人」が72.3%，「異なる人」が27.7%です．それが27年前だと，「似ている人」が51.5%，「異なる人」が48.5%と，昔の学生の方が異なる人を求めているという傾向がわかります．

有意義な大学生活へのメッセージ

こうした傾向を踏まえ，皆さんに最後に言っておきたいことがあります．

今の学生は，どちらかというと，すごく狭い範囲の中で友人形成をしていえると思います．昔の学生に比べて，輪を広げて，いろいろな人と付き合おうとしなくなくなっていることは，とても残念なことだと，私は思っています．社会人になると，人間関係を広げるのはもっと難しくなります．先日，ゼミの卒業生2人から話を聞きました．いずれも，結婚の報告だったのですが，出会いは2人ともマッチング・アプリだったそうです．つまり，コロナ禍もあって，新しい人と自然な形で出会う機会をもつのは，さらに難しくなっているというのが現状なのです．

今，関学には2万7000人の在籍者がいます．皆さんには，もっともっと，いろいろな人と出会えるチャンスが，4年間の中にあるはずなのです．皆さんにこの4年間，意識的に頑張って，様々な人と知り合い，話をし，関わり合ってもらいたいと私は思います．それによって，新しい価値観や知見など，様々なことを学んでいくことができるのではないかと思います．自分の知らない世界の人と多く交ざり合うことが，皆さんの人生にとって非常に重要なことであると，私は言っておきたいです．これが，私が教員として皆さんに伝えたい最後のメッセージです．

（社会学部教授）

2023. 12. 14（木）

私が戦争について聞いた話

桑 山 敬 己

最後のチャペルトーク

私が関西学院大学に就任したのは 2018 年４月のことでした．それから約６年の日々が過ぎ，今年度をもって私は定年退職します．６年のうち２年はコロナ禍によって対面授業ができず，シニアの教員としての経験や知恵を，直接伝えることはできませんでした．その意味で，今日は皆さんに肉声で語りかける最後の機会の一つとなります．

なぜ戦争について語るのか

今日の話のタイトルは「私が聞いた戦争の話」です．このテーマを選んだ理由は二つあります．一つは，今現在ウクライナとパレスチナで進行中の戦争が示すように，残念ながら戦争は私たちが生きている世界の一部だからです．もう一つは，私自身には戦争体験がないものの，戦禍を経験した私の父母や，父母と世代の近い人たちから聞いたことを，これからの時代を生きる皆さんに，伝えておきたいと思ったからです．

学徒出陣

３つのことに焦点を絞って話を進めます．第１は学徒出陣です．昭和 18（1943）年，戦況の悪化により，それまで兵役を免除されてきた学生や生徒が軍隊に入り，出征しました．出陣式（正式には「出陣学徒壮行会」）は 10 月 21 日，現在，国立競技場がある明治神宮外苑競技場で，陸軍大将の東条英機首相が訓示を垂れる中，雨の日に行われました．その時の様子はいまでもメディアで流されることがあるので，見たことがある人もいるでしょう．

私が東京の大学でご一緒した田村秀夫という先生は，社会史が専門の元学徒でした．既に故人となられていますが，25 年ほど前に行われた最終講義で，田村先生は学徒出陣式のビデオを流して，「ああ，私はこの辺にいました」と仰ったのです．それまで学徒出陣式に出た人を直接知らなかった私は驚きましたが，先生が話されたことは鮮明に覚えています．

田村先生の出征先は朝鮮でした．冬，風呂に入ってタオルを干すと瞬く間に凍ったとのことですので，たぶん半島北部だったのでしょう．健康を害した田村先生は一時入院されたのですが，そこで出会った患者の一人は学徒でした．同じ学徒として話がはずんだそうですが，その人に残された命が短いことはすぐ分かったとのことです．ある日のこと，そ

の人は田村先生に次のように言ったといいます．「生きて日本に帰れたら，もう一度大学で勉強したいなあ」と．しばらくして，その人は亡くなりました．

田村先生ご自身は，軍医から「お前，本当は日本に帰りたいだろう」と聞かれて，正直に「はい」と答えたら，そのように診断書を書いてくれたので，終戦前に帰国することができました．

私は田村先生の話を聞きながら，廃墟と化した日本を再生した元学徒の心の中には，まず戦場に散った多くの同年代に対して，生き残ったことに罪悪感があるように感じました．そして，彼らが戦後日本の学問の復興に務めたのは，先に逝った元学徒への「弔い」だったのではないか，という感を深くしました．

軍国少年

第２は軍国少年の話です．軍国少年とは，現在の学制で言えば小学生や中学生の子どもで，戦時中，国の言うままに神の国・日本の勝利を信じて，「鬼畜米英」を叫んだ人たちのことです．軍国少年はだいたい昭和の初めの生まれで，自分で物事を考えることのできた学徒とは違って，盲目的に大人の言うことを信じていました．

そんな少年の一人が，私が東京外国語大学で習った哲学者の宮川透先生でした．大柄でただでさえ迫力のある方でしたが，授業で戦争のことを話し始めるとさらに迫力が増して，「平和ボケ世代」と言われた私たち学生は，よく一喝されたものです．

中でも次のような話をよく覚えています．一つは敗戦を機に天地がひっくり返ったということです．たとえば，それまで「天皇陛下万歳」を叫んでいた学校の先生が，敗戦後間もなくすると，「今日から民主主義の時代です」と平気な顔をして言い始めたのでした．もう一つは，こうした君子豹変と関係するのですが，教科書の軍国主義的な箇所を，占領軍の指示によって黒墨で消したことです．この二つの出来事は，宮川先生のみならず多くの生徒が経験したことで，かつての軍国少年が大人への不信を募らせ，国を信用しなくなる契機となりました．

宮川先生によると，学問に飢えた当時の学生は，書物を求めて東京神田の古書店街に押し寄せ，粗末な質の紙に印刷された文字を貪るように読んだとのことです．いま私がここにもっている本は，川島武宜の名著『日本社会の家族的構成』（学生書房，1948 年）です．終戦３年後の昭和 23 年（1948 年）に刊行されましたが，紙質はわら半紙以下です．それは戦争の爪痕を雄弁に物語っています．

対照的に，私がアメリカ滞在中（1982 年から 1993 年）に入手したこの英語の本 Abram Kardiner, *The Individual and His Society*（Columbia University Press, 1939）は，終戦１年後のアメリカで刊行されました．何と透かしが入った高品質の紙を使っています．勝者と敗者の差は歴然としていました．そもそも，あのような大国と戦争したことが無謀だったのです．

戦争に行った父

最後は寡黙だった私の父の一言です．曰く，「軍隊が出てきたら，警察はイチコロだ」．父は戦争についてめったに話さなかっ

たので，この発言はよく覚えています．近代国家は強大な権力をもっており，その一つが警察権です．警察は治安維持に大きな役割を果たしますが，怖い存在でもあります．その警察でさえ，軍隊の前ではまったく無力だというのが，戦争に駆り出された私の父の実感でした．

父は貧しい家に生まれ育ったので，今で言えば中卒でした．ですから，軍隊には二等兵で入ったのですが，入隊してすぐ上官から言われたことは，「馬でも買うのに金がかかる．お前たちは赤紙一本で来たのだからタダだ」ということでした．赤紙とは召集令状のことです．旧日本軍はその程度にしか人間を扱っていなかったのです．

過去は清算されたのか

こうした考えが現在の自衛隊から一掃されたのかどうか，市民として私たちは注視しないといけません．実のところ，私は少し心配しているのです．というのも，現在，自衛隊の観閲式などで流されている「陸軍分列行進曲」は，旧日本陸軍の行進曲だからです．この曲は学徒出陣式でも流され，田村先生たちを戦場に送りました．それは陸軍配属になった私の父が，事あるごとに聞いた曲でもありました．いわゆる「軍艦マーチ」（または「軍艦」）も同様で，現在でも海上自衛隊の行進曲として使われています．音楽だけで判断することはできませんが，少なくとも行進曲に関する限り，反省すべき過去との決裂が十分できていないのです．

軍隊に対する無知・無関心

しかし，それ以上に私が危惧しているのは，敗戦から約 80 年間，日本人は軍隊について真剣に考えることがなかったため，軍隊とはどういう存在なのか，軍人は何を考えてどのように行動するのか，戦場では何が起こるのか，といった問題に対して，あまりにも無知で無関心だということです．

そうこうしているうちに，自衛隊は世界トップ 10 にゆうに入る軍事力をつけ，最近では仮想敵国に対抗して実戦配備を強化しています．防衛費（国際統計では一般に military expenditure つまり「軍事費」）もうなぎ上りです．また，専守防衛には本来いらないはずの空母も，事実上 2 隻をもつに至りました．護衛艦をいつの間にか空母につくり変えたのです．

世の中をよく観察して，自分の頭で考える

私たちはこうした現実から目を背けてはいけません．特に，社会のことを勉強するために大学に来た社会学部の学生は，日本および世界の動きをよく見て，どのように理解したらよいのかを考えてください．そして，次世代を担う皆さんには，今日私が紹介した先人の思いや言葉をしっかりと受け止めたうえで――いろいろな立場がありますから，受け継ぐのではなく受け止めるのです――，自分たちは何をすべきなのかを，真剣に考えてもらいたいのです．さもなければ，現在私たちが当たり前に思っている学問の自由はもちろん，多大な犠牲を払って戦後日本が手に入れた尊い平和は，いとも簡単に崩れ去ってしま

うでしょう.

　関西学院大学という素晴らしい場を去るにあたって，そのことを皆さんに伝えておきたいと思います．ご清聴ありがとうございました.

（社会学部教授）

Ⅶ. 学年度末にあたって

2024. 1. 16（木）

「鎮めの時間」を生きる

島　村　恭　則

直進する時間

秋学期最後のメッセージということでお話しします．今日は「時間」について話したいと思います．

ここにいる多くの人たちは１年生が一番多いと思うのですけれども，１年生の人は大学に入学して，高校の時と全然違う時間の流れになったと思います．１年前を思い出すと，まだ高校生ですね．その時と現在の時間の流れ方が全然違うと思います．それをさらにさかのぼってみると，高校３年生と２年生と１年生も違うでしょうし，高校に入った時は中学校の時と時間が違います．もっとその前は小学校と違う，もっと前だと幼稚園と違うと，時間というのは，人生の段階において，時間の流れ方や時間の意味するところが変わってくるわけです．

大学生の中でも，１年生の時と２年生と３年生，４年生となると，それぞれ違う時間の流れ方をしていくと思います．

それから，同じ大学に通っていても，学部によっても違うだろうし，ゼミによっても，各サークルによっても時間の流れ方が違う．あるいは，友達の時間の流れ方と自分の時間の流れ方で，同じ部分もあるけれども違う部分もあると感じていると思います．

大学によっても時間の流れ方が違います．関西学院大学は，まさに皆さんがここに今いる，このチャペルの時間があります．打樋先生によると，このチャペルアワーが，こういう形で時間設定されて守られている大学は，関西学院大学と青山学院大学と西南学院大学の３つしかないそうです．

このチャペルの時間というのは，関学が始まって以来ずっと行われてきている長い伝統，134 年間の伝統になっています．これは，つまり，在学している時はもちろんですが，卒業した後も，チャペルを，この時間を体験したという記憶が関西学院大学の卒業生に共有されています．こうしたことをふまえると，チャペルの時間は，関西学院のアイデンティティーにも関わる重要な部分，最も大切にされている時間だといえるでしょう．そこに今，皆さんがいるということですね．

このように，大学によっても時間の意味付け，どういう時間が流れているのかということが違います．それから，時間というのは，社会に出たら社会の中のいろいろな時間の流れ方があるし，人類規模で言っても，世界中で時計の刻みは世界共通ですけれども，それを長く感じたり，短く感じたり，どこで区切るか，どの部分を重要視するかなど，人類にはとても多様な時間があるということになり

ます．

ところが，ともすると私たちは，目の前にある主流の，大体このようなものだという，決まっているかのような時間の流れ方に従わなければならないのではないかと感じがちです．例えば，一直線に努力をして，そこに向かってまっしぐらに進んで，脇目も振らないとか，休むのももったいないとか，なにか休むことに罪悪感を感じてしまうことすらあるような，何か目標を設定してそこに向かって努力していかなければいけない．それで達成できないと，それは達成できた人に比べて，努力が足りない，何かが劣っている，何か間違っているというふうにすら思いがちな，そういう直線的な時間を生きていることが，少なくとも，この日本の社会では，正しい時間のように思いがちです．が，それは錯覚で，本当は多様なのです．「一直線のまっしぐらな時間の流れ」以外の時間を生きている人はたくさんいます．でも，私たちは錯覚しがちなわけです．

「煽りの時間」と「鎮めの時間」

「煽（あお）り」という言葉と「鎮（しず）め」という言葉があります．煽るというのは，煽り立てること，鎮めるというのは心を鎮めることです．「煽りの文化」と「鎮めの文化」という言葉があります．社会学者の大村英昭さんは，関西学院大学の社会学部の教授だったのですが，10 年ぐらい前に定年退職をされまして，今は亡くなられています．この大村英昭先生という社会学部の先生が「煽り」と「鎮め」ということを言いました．これは難しいことではなくて，むしろ一般の社会の人に対して分かりやすく説明するために，そのような言葉を使いました．

「煽りの文化」というのは，先ほど言ったような，一直線にまっしぐらに努力し続けなさいと煽る，そういう文化です．それに対して，鎮めというのはまさに心を鎮めるという，立ち止まって心を静めるというそういう「鎮めの文化」がある．基本的に宗教は「鎮めの文化」，心を鎮める文化です．中には煽り立てる宗教もあるかもしれないけれども，それはそれとして，基本的には宗教は「鎮め」だと思います．

ですから，例えばこのチャペルも，まさにここでは鎮まる時間，鎮めの時間，自分を鎮める，自分が鎮まる，鎮めの時間というものを大事にしています．毎日，チャペルという鎮めの時間が組み込まれた時間の流れを関西学院に学ぶ皆さんは送っているわけです．

でも，世の中的には，２年生でインターンシップに行って，３年生で就職活動をして，どうして，こうして，４年生の就職も５月ぐらいまでに決まっていないとどうしようというような実態がある．それはそれで，そういう仕組みがあることは理解できますけれども，それだけが絶対の価値観になるのは大変貧しいことでしょう．現実的には，その中で生きていかなければいけないとしても，その中に，やはり鎮めの時間があることが大事だと思います．まさに今，皆さんは鎮めの時間にいるわけですが，こういう時間が大事なのです．

チャペル以外でも，宗教以外の生活の中でも，次のような人はいませんでしたか？　私は歴代のゼミ生たちの中で，何回かそういうタイプの人に会いましたが，何でも一生懸命やって，まず勉強も頑張る，成績もいい，単位もいっぱい取りました．ゼミも一生懸命や

っています．部活も２つ掛け持ちでやっています．そしてボランティアもして，アルバイトもしています．１週間どういう暮らしをしているのと思うような人です．とても積極的です．

そういう人は，すごく努力しているのが分かるし，充実しているのですけれども，少し鎮まった時間を持ったほうがいいのではないかと思ったことが何度もありました．何もしない時間です．それがないと，頭も落ち着いて動き出さないし，落ち着く時間も日常の中では必要だと思います．

皆さんは，放っておくと，目標を立てて直進する時間が生き方のモデルになっていて，それから外れることにとても不安を抱くかもしれません．でも，世の中の人たち，地球上の人類は皆，多様な時間を生きているということも知ってほしいですし，直線の中で生きていく上でも，途中でとどまる，鎮める，鎮まる時間がとても大事だと思います．

円環する時間

それと，もう１つ，時間の話でもう１つ追加したいと思います．今日は，秋学期の最後です．そして，４月からまたこのチャペルが始まります．クリスマスも毎年やってきますよね．あるいは，新年という言い方でいけば，キリスト教以外の暦でも，日本の暦だったら，明けましておめでとうございます，１年の計は元旦にありのように，一回リセットして再出発する．こうした時間は，毎年繰り返される時間です．これは「直進する時間」に対して「円環する時間」です．円環状になって，サイクル，毎年毎年，時間がぐるぐる回るということです．こちらの時間も，考えてみれば，皆さんは毎年体験しているわけです．繰り返される時間です．

この繰り返される時間というのは，まずクリスマスがそうですけれども，宗教的な時間や神話的な時間が持つ特徴です．こういう宗教的，神話的な円環する時間は，四季がある日本だったら，まさに四季，自然の流れと対応しているわけです．農業は作物を育てますので，種をまいて，収穫して，もう一回また次のサイクルに種をまきます．こういう人類に基本的な円環する時間もあります．

この円環する時間というのは，始まりを意識したり，人間の原点を意識したり，神や宇宙や自然など人間を超えたものを感じさせる時間だと思います．一方の一直線の時間は，近代社会では，人間が自分で一直線に目標を立てて，人間中心でやっています．円環する時間というのは，それを超えたところを気付かせてくれる時間でもあると思います．結局，人間にとっての時間とは，直線と円環が組み合わさって，らせん階段のように進んでいっているのだと思います．

今日は，特に最後なので，時間の区切りですので，時間のお話をしましたが，皆さんには，ぜひ，この煽る社会の中で，鎮めの時間や，あるいは人間を超えた時間を意識したり，また，自分たちの世界以外に多様な時間を生きている人たちがいるということを考えてほしいと思います．複数の時間，多様な時間というものがあるのだということを知り，豊かな自分の時間をつくっていってほしいと思います．

それでは，秋学期の最後のメッセージをこれで終わりにします．また来年度４月に会いましょう．

（社会学部教授）

2023 年度　チャペル講話集

2024 年 3 月 25 日発行

発行　関西学院大学社会学部
〒662−8501
兵庫県西宮市上ケ原一番町 1−155
TEL（0798）54−6202

印刷　関西学院大学出版会

K.G.